# 大東亞戰爭と
# その前途

特248
757
652

大政翼贊會宣傳部編

20セン

始

特248
757

宣傳部編

# 大東亞戰爭とその前途

大政翼贊會刊行

# 詔書

對米英戰宣布告に際し賜はりたる

# 詔書

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ皇祚ヲ踐メル大日本帝國天皇ハ昭ニ忠誠勇武ナル汝有衆ニ示ス

朕茲ニ米國及英國ニ對シテ戰ヲ宣ス朕カ陸海將兵ハ全力ヲ奮テ交戰ニ從事シ朕カ百僚有司ハ勵精職務ヲ奉行シ朕カ衆庶ハ各〻其ノ本分ヲ盡シ億兆一心國家ノ總力ヲ擧ケテ征戰ノ目的ヲ達成スルニ遺算ナカラムコトヲ期セヨ

抑〻東亞ノ安定ヲ確保シ以テ世界ノ平和ニ寄與スルハ丕顯ナル皇祖考丕承ナル皇考ノ作述セル遠猷ニシテ朕カ拳々措カサル所而シテ列國トノ交誼ヲ篤クシ萬邦共榮ノ樂ヲ偕ニスルハ之亦帝國カ常ニ國交ノ要義ト爲ス所ナリ

今ヤ不幸ニシテ米英兩國ト釁端ヲ開クニ至ル洵ニ已ムヲ得サルモノアリ豈朕カ志ナラムヤ中華民國政府曩ニ帝國ノ眞意ヲ解セス濫ニ事ヲ構ヘテ東亞ノ平和ヲ攪亂シ遂ニ帝國ヲシテ干戈ヲ執ルニ至ラシメ茲ニ四年有餘ヲ經タリ幸ニ國民政府更新スルアリ帝國



ハ之ト善隣ノ誼ヲ結ヒ相提攜スルニ至レルモ重慶ニ殘存スル政權ハ米英ノ庇蔭ヲ恃ミテ兄弟尙未タ牆ニ相鬩クヲ悛メス米英兩國ハ殘存政權ヲ支援シテ東亞ノ禍亂ヲ助長シ平和ノ美名ニ匿レテ東洋制覇ノ非望ヲ逞ウセムトス剩ヘ與國ヲ誘ヒ帝國ノ周邊ニ於テ武備ヲ增强シテ我ニ挑戰シ更ニ帝國ノ平和的通商ニ有ラユル妨害ヲ與ヘ遂ニ經濟斷交ヲ敢テシ帝國ノ生存ニ重大ナル脅威ヲ加フ朕ハ政府ヲシテ事態ヲ平和ノ裡ニ回復セシメムトシ隱忍久シキニ彌リタルモ彼ハ毫モ交讓ノ精神ナク徒ニ時局ノ解決ヲ遷延セシメテ此ノ間却ツテ益〻經濟上軍事上ノ脅威ヲ增大シ以テ我ヲ屈從セシメムトス

斯ノ如クニシテ推移セムカ東亞安定ニ關スル帝國積年ノ努力ハ悉ク水泡ニ歸シ帝國ノ存立亦正ニ危殆ニ瀕セリ事既ニ此ニ至ル帝國ハ今ヤ自存自衞ノ爲蹶然起ツテ一切ノ障礙ヲ破碎スルノ外ナキナリ

皇祖皇宗ノ神靈上ニ在リ朕ハ汝有衆ノ忠誠勇武ニ信倚シ祖宗ノ遺業ヲ恢弘シ速ニ禍根ヲ芟除シテ東亞永遠ノ平和ヲ確立シ以テ帝國ノ光榮ヲ保全セムコトヲ期ス

御名御璽

昭和十六年十二月八日

各國務大臣副署

# 大詔を拜して

東條首相謹話

只今宣戰の御詔勅が渙發せられました。精鋭なる帝國陸海軍は今や決死の戰を行ひつゝあります。東亞全局の平和は、之を熱願する帝國の凡ゆる努力にも拘らず、遂に決裂の已むなきに至つたのであります。

過般來、政府はあらゆる手段を盡し對米國交調整の成立に努力して參りましたが、彼は從來の主張を一歩も讓らざるのみならず、却つて英、蘭、支と聯合して支那より我が陸海軍の無條件全面撤兵、南京政府の否認、日獨伊三國條約の破棄を要求し帝國の一方的讓歩を强要して參りました。之に對し帝國は飽く迄平和的妥結の努力を續けましたが、米國は何等反省の色を示さず今日に至りました。若し帝國にして彼等の强要に屈從せんか、帝國の權威を失墜し支那事變の完遂を期し得ざるのみならず、遂には帝國の存立をも危殆に陷らしむる結果となるのであります。

事茲に至りましては、帝國は現下の危局を打開し、自存自衞を全うするため斷乎として立ち上がるの已むなきに至つたのであります。

今宣戰の大詔を拜しまして恐懼感激に堪へず、私不肖なりと雖も一身を捧げて決死報國唯々



宸襟を安んじ奉らんとの念願のみであります。國民諸君もまた、己が身を顧みず、醜の御楯たるの光榮を同じくせらるるものと信ずるのであります。

凡そ勝利の要訣は「必勝の信念」を堅持することであります。建國二千六百年、われ等は、未だかつて戰ひに敗れたるを知りません。この史績の回顧こそ、如何なる强敵をも破碎するの確信を生ずるものであります。我等は光輝ある祖國の歴史を斷じて汚さざると共に、更に榮ある帝國の明日を建設せむことを固く誓ふものであります。顧みれば我等は今日まで隱忍と自重との最大限を重ねたのでありますが、斷じて安きを求めたものでなく又敵の强大を惧れたものでもありません。只管世界平和の維持と人類の慘禍の防止を顧念したるに外なりません。然も、敵の挑戰を受け祖國の生存と權威とが危きに及びましては、蹶然起たざるを得ないのであります。

當面の敵は物資の豐富を誇り之に依て世界の制覇を目指して居るのであります。此の敵を粉碎し、東亞不動の新秩序を建設せむが爲には、當然長期戰たることを豫想せねばなりませぬ。之と同時に絶大の建設的努力を要すること言を要しませぬ。斯くてわれ等はあくまで最後の勝利が祖國日本にあることを確信し如何なる困難も障碍も克服して進まなければなりません。これこそ、昭和の臣民われ等に課せられたる天與の試煉であり、この試煉を突破して後にこそ大東亞建設者としての榮譽を後世に擔ふことが出來るものであります。

この秋に當り滿洲國及中華民國との一德一心の關係いよ〳〵敦く獨、伊兩國との盟約益〻堅きを加へつゝあるのを、欣快とするものであります。帝國の隆替、東亞の興廢、正に此の一戰に在り、一億國民が一切を擧げて、國に報い國に殉ずるの時は今であります。八紘を宇となす皇謨の下にこの盡忠報國の大精神ある限り、英米と雖も何等惧るゝに足らないのであります。勝利は常に御稜威の下にありと確信致すものであります。私は茲に、謹んで微衷を披瀝し、國民と共に大業翼贊の丹心を誓ふ次第であります

## 政府聲明

恭しく宣戰の大詔を奉戴し茲に中外に宣明す。そも〳〵東亞の安定を確保し世界平和に貢献するは帝國の不動の國是にして、列國との友誼を敦くしこの國是の完遂を圖るは帝國が以て國交の要義と爲す所なり。

然るに、曩に中華民國は我眞意を解せず徒らに外力を恃んで、帝國に挑戰し來り支那事變の發生を見るに至りたるが　御稜威下、皇軍の向ふ所敵なく、既に支那は重要地點を悉く我手に歸し同憂具眼の士國民政府を更新して帝國は之と善隣の誼を結び、友好列國の國民政府を承認するもの已に十一ヶ國の多きに及び、今や重慶政權は奥地に殘存して無益の抗戰を續くるに過ぎず。然れども英



米兩國は東亞の永久に隷屬的地位に置かんとする頑迷なる態度を改むるを欲せず。百方支那事變の收結を妨碍し更に蘭印を使嗾し、佛印を脅威し、帝國と泰國との親交を裂かむが爲、策動至らざるなし。仍ち帝國とこれ等南方諸邦との間に共榮の關係を增進せむとする自然的要求を阻害するに寧日なし。その狀恰も帝國を敵視し帝國に對する計畫的攻擊を實施しつつあるものの如く、遂に無道にも、經濟斷交の擧に出づるに至れり。凡そ交戰關係に在らざる國家間における經濟斷交は、武力に依る挑戰に比すべき敵對行爲にして、それ自體默過し得ざる所とす。然も兩國は更に與國を誘引して帝國の四邊に武力を增强し、帝國の存立に重大なる脅威を加ふるに至れり。

帝國政府は、太平洋の平和を維持し、以て全人類に戰禍の波及するを防止せむことを願念し、叙上の如く帝國の存立と東亞の安定とに對する脅威の激甚なるものあるに拘らず、隱忍自重八ヶ月の久しきに亙り、米國との間に外交交渉を重ね、米國と其の背後に在る英國並に此等兩國に附和する諸邦の反省を求め、帝國の生存と權威との許す限り、互讓の精神を以て事態の平和的解決に努め、盡す可きを盡し、爲す可きを爲したり。然るに米國は徒らに架空の原則を弄して東亞の明々白々たる現實を認めず、その物的勢力を恃みて帝國の眞の國力を悟らず、與國と共に露はに武力の脅威を增大し、以て帝國を屈從し得べしとなす。斯くて平和的手段に依り米國並に其の與國に對する關係を調整し、相携へて太平洋の平和を維持せむとする希望と方途とが全く失はれ東亞の安定と帝國の

存立とは方に危殆に瀕せり、事茲に至る遂に米國及び英國に對し宣戰の大詔は渙發せられたり。聖旨を奉戴して洵に恐懼感激に堪へず、我等臣民一億、鐵石の團結を以て蹶起勇躍し、國家の總力を擧げて征戰の事に從ひ、以て東亞の禍根を永久に芟除し聖旨に應へ奉るべきの秋なり。

惟ふに世界萬邦をして各〻その處を得しむるの大詔は炳として日星の如し、帝國が日滿華三國の提携に依り共榮の實を擧げ進んで東亞興隆の基礎を築かんとするの方針は固より渝る所なく、又帝國と志向を同じうする獨伊兩國と盟約して、世界平和の基調を劃し、新秩序の建設に邁進するの決意は益〻牢固たるものあり。而して今次帝國が南方諸地域に對し新に行動を起すの已むを得ざるに至る。何等その住民に對して敵意を有するものにあらず。只英米の暴政を排除して東亞を明朗本然の姿に復し、相携へて共榮の樂を頒たんと冀念するに外ならず、帝國は之等住民が我眞意を諒解し、帝國と共に東亞の新天地に新なる發足を期すべきを信じて疑はざるものなり。

今や皇國の隆替、東亞の興廢はこの一擧に懸れり。全國民は今次征戰の淵源と使命とに深く思ひを致し、苟も驕ることなく、又怠たる事なく、克く竭し克く耐へ、以て我等祖先の遺風を顯彰し、難關に逢ふや必ず國家興隆の基を啓きし我等祖先の赫々たる史績を仰ぎ、雄渾深遠なる皇謨の翼贊に萬遺憾なきを誓ひ、進んで征戰の目的を完遂し、以て聖慮を永遠に安んじ奉らむことを期せざるのべからず。



# 目次

對米英戰宣戰布告に際し賜はりたる詔書……二
大詔を拜して……四
政府聲明……六
はしがき……一
一、吾等の大理想……一
二、蔣抗日政權潰滅方策……三
三、蔣の抗戰能力……七
四、事變處理方策……一二
五、英國の敵性……一六
六、米國の敵性……一八

七、ソ聯の動向……二三
八、敵性國に對するわが態度……二四
九、東亞共榮圏確立の必然性……二六
一〇、わが南方政策……三〇
一一、A・B・C・D包圍陣……三一
一二、日米會談……三五
一三、對英米宣戰布告……四〇
一四、大東亞戰爭の前途……四三
一五、むすび……四八
附錄第一　十二月八日對米覺書內容及交渉經過公表……一
附錄第二　米英の敵性日記……一七



# はしがき

時は將に昭和十六年十二月八日、皇軍は遂に米英と西太平洋に於て交戰狀態に入つた。來るべきものが來た。今日あることは全國民の齊しく覺悟したところである。七月二十六日英米蘭の對日經濟宣戰を契機として、帝國は遂に自存自衞のため、已むを得ずして、米英を對手として戰はざるを得ざる情勢に立ち至つた。帝國は今や將に文字通り世界戰爭に入つた。

滿洲事變以來茲に十年、皇道宣布のために戰ひ續け來つた我等は、今や對米英戰爭に方り、眞に皇國三千年の光輝ある歷史を双肩に擔つて、皇國の興廢を決する最後の決勝戰に立ちつつある。思へばわれ等皇國一億國民の責務や寔に重且つ大なるものあるを覺ゆる。

海行かば　水つく屍　山ゆかば　草むす屍
大君の邊にこそ死なめ　かへりみはせじ

かへらじとかねて思へば梓弓
なき數に入る名をぞとどむる

この古への和歌二首は遠く北に、南に護國の重任を負つて活躍しつつあるわが皇軍將兵の心情で

あり、誠である。

われわれ一億國民は、今こそ皇國存亡を決する秋たることを膽に銘じ眞に一億一心、祖先より傳へし奉公の誠を捧げ、まづ内を固め、皇軍をして後顧の憂へなからしめ、この大難關突破に當らねばならない。

本書の編纂については情報局の協力斡旋により、情報局情報官陸軍少佐竹田光次氏に執筆を依頼し、同氏の該博達識な卓見と豐富な資料に基いて匆々の間よく時局の核心を捉へて脱稿をみたもので、玆に謹んで情報局並に竹田少佐に對し深甚の謝意を表する次第である。

十二月八日對米・英宣戰布告の日

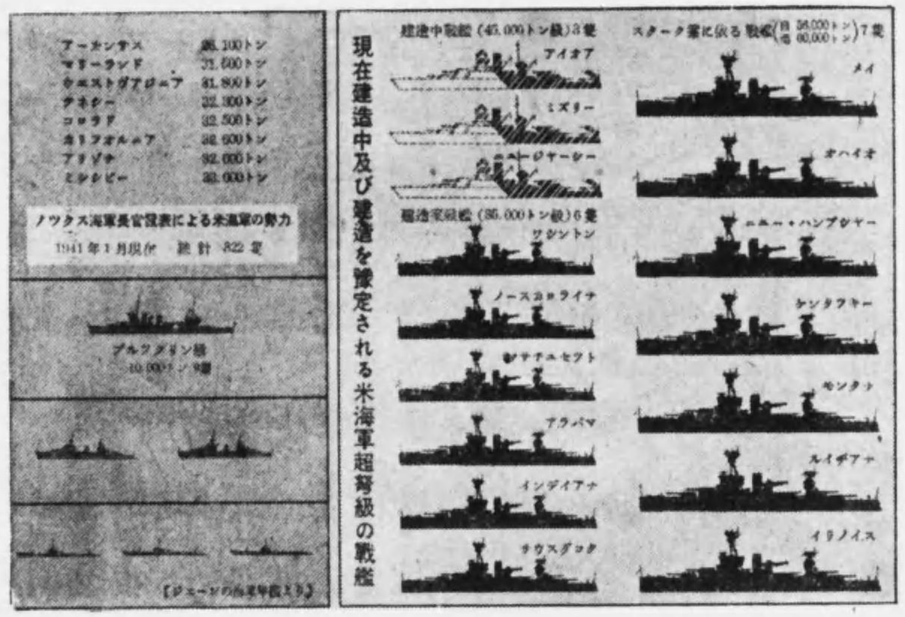
大政翼贊會宣傳部

佛印における植民

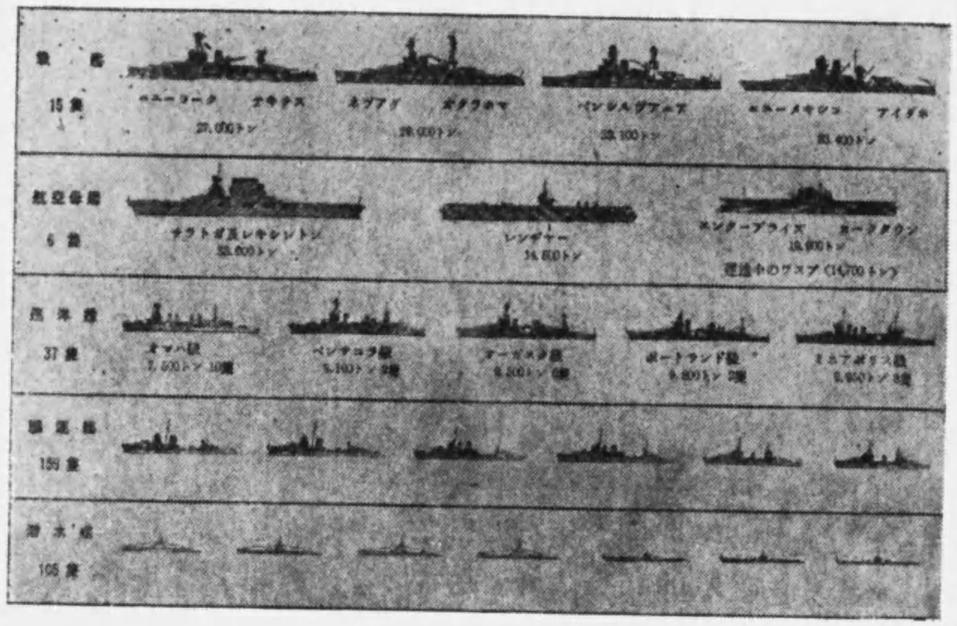
氣息奄々、僅かに餘命を保つ重慶政權の唯一の補給路たるビルマルート

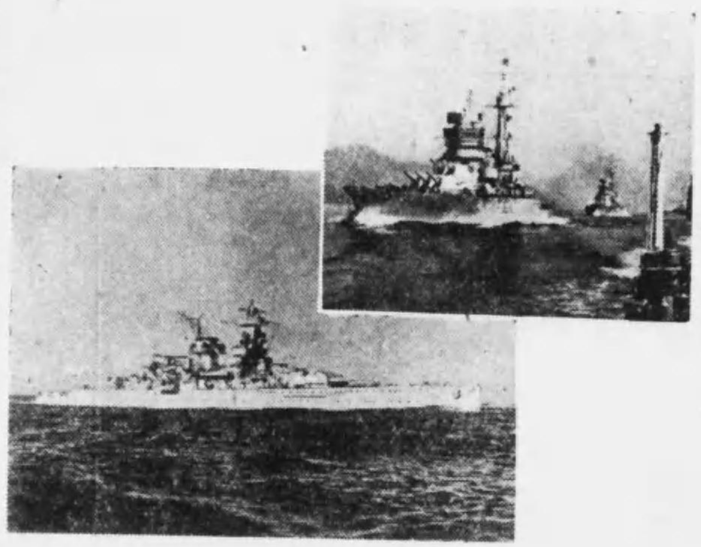
世界垂涎の的たる蘭印ゴム栽培園

佛印國境を監視しつゝある我が歩哨




獨逸海軍が世界に誇るユーボートと急降下爆撃機の編隊



盟邦獨伊の海の誇り、堂々地中海を壓する伊國艦隊（右上）と獨主力艦（左下）

# 對米英宣戰布告の日！

決戰國民常會

「帝國陸海軍は今八日未明西太平洋において米英軍と戰鬪狀態に入れり」との大本營陸海軍部の發表に依り、五日間の會期を一日に壓縮して十二月八日開催の緊急中央協力會議は午後一時より開會、後藤協力會議長は長くもこの日渙發せられたる　大詔を奉讀　次いで東條總裁は「御棧威の下全國民は鐵石の團結を以て一路勝利に邁進されたし」との烈々たる不退轉の決意を要請すれば滿場怒濤の如き拍手を以てこ之に應へ、續いて安藤副總裁、谷情報局總裁、奥村同次長より相携へて國難突破に挺身せんと、國民たるの覺悟を絶叫すれば滿場唯々感激と興奮の坩堝と化するのであつた。

會議半ばに議員は宮城前に行進　聖諚の萬歲を奉唱、國民の固き決意を誓ひ奉るのであつた。

# 大東亞戰爭とその前途

## 一、吾等の大理想

理想なき民は亡ぶ。われ等は世界に比類なき皇國に生を享ける國民である。皇國は八紘一宇、萬邦協和の大理想をもつて肇國せられ、萬世に亘つて一系なる　天皇を中心とし、國體の基礎永へに固く、その生命體的な家族國家は、嘗て外夷の侮を受けたことなく、その間自らの文化を東洋乃至世界に傳へると共に、われ自らもまたインド、支那、西洋の文化を學びつつ建國の歷史あつて以來已に二千六百一年を經過し來つた。二十世紀におけるわれ等の大使命たる天業を世界に恢弘すべき皇戰は、先づ露西亞の東亞侵襲將に東海の濱に迫らんとして火蓋が切られた。これ則ち日露戰爭である。この露西亞東亞侵略政策の頓挫を段階として、吾等は東亞における使命の重且つ大なるを悟つた。卽ち數世紀に亘る歐米侵略搾取の東亞を解放すべきことこれである。

卽ち、先きに起つた滿洲事變は、わが八紘一宇の大理想が顯現されて滿洲國の誕生を見た。滿洲國は日滿一億一心、民族協和、道義世界の建設を目標として建國以來僅か十年に滿たらざるに極め

て順調な進展を見せてゐる。蓋し、これ皇國の踏み行ふところが常に道義に卽し、正義に基づくからに外ならないからである。

東亞更生の自覺は支那においても擡頭した。卽ち、一九一一年、清朝を倒した國民革命運動である。支那の救世主とも稱された蔣介石は、衰亡亂麻の支那を驅つて近代國家としての體貌を整ふことに日夜汲々として努力した。皇國も亦東亞の兄弟民族として善隣友好の誼を厚くせんと努めたことは一切ではなかつた。しかしながら、不幸蔣介石一派には廣く深く事物を洞察するの明なく、徒らに皇國を敵視し、無暴にも皇國と戰ひ勝つことによつてのみ建國し得るとの迷妄に陷り、支那事變を惹起し、既に四年有餘に亘つて支那四億民衆を塗炭の苦しみに陷れてゐる。我が國には支那事變によつて支那を征服し支那を亡ぼさんなどとの考へを抱く者は一人もない。いまなほ支那一部の惑へる抗日分子の改悟を念願してゐる。支那事變は興亞道程における一大試煉であるとの考へは吾人の誠より發する叫びである。戰勝國としての領土の占領、賠償金を求めざるは、その具體的現れでなくてなんであらう。

支那事變はまた一面、支那四億の民衆を、彼等の宿敵である東洋の壟斷勢力米英の傀儡となつてゐる蔣介石政權を打倒し、連年に亘る戰禍の中から人類の道義に卽して解放せんとする戰ひである。これは單なる口頭禪ではない。皇國の指導精神に共感せる支那建國の元勳汪精衞氏は、奮然として



起ち新しき國民政府を建設した。これまた日と共に健全な發展を遂げつつある。

滿洲國といひ、國民政府統治の新支那の誕生といひ、共に近世帝國主義戰爭、侵略戰爭に對し皇國獨自の國心に發する戰爭であることを事實を以て證明せるものである。

世界の爲政者は先づ事柄を事實に卽して研究し、然る後皇國の是非を論ずべきである。皇國が日に月に發展を遂げつつある所以のものも、この天の攝埋に副へるからに外ならない。

今次大東亞戰爭の目的、戰爭の指導も亦皇道に基づくものなることは當然であつて、開戰第二日泰國が皇軍の平和進駐を認めた事はその第一の現はれであつて、東亞のため祝福に堪へない事である。

八紘一宇、萬邦協和の肇國の大精神は悠久の昔より、われわれがうけ繼ぎ、うけ傳へるべき皇道である。われ等は今や悉くその第一線の戰士である。皇道のために生き、皇道のために死す、これ日本臣民の使命である。

## 二、蔣抗日政權潰滅方策

支那事變が勃發するや帝國政府は日支宣戰の型式を取らず、極く小規模の武力行使によつて紛爭の局部的解決を圖つたその眞意は今日の如き日支の全面衝突による大慘劇を惹き起さざらんがため

に外ならなかつたのである。

しかるに、わが親心を解せざる蔣介石は、自己の力を過信し、帝國の國力を過小視したため、戰鬪は北支の局地から全面戰爭へと推移した。

事變勃發當時上海を守備した帝國海軍特別陸戰隊の兵力は僅かに四千名程度に過ぎなかつた。蔣介石軍當局は日本陸軍部隊の上陸に先立ち之を各個に擊破し得るものとの甘き判斷の下に、支那軍四、五十師を以て一大攻勢に出て來た。之に對し忠勇無双のわが陸戰隊は寡兵よく、敵の猛襲を挫き、陸軍の上陸を援護し、敵の最初の企圖を完全に挫折せしめたのであつた。

帝國政府は事態かくなる以上、最初の消極方針を一擲し、全面的に膺懲せざるべからずと決し、茲に百萬の皇師は東支那海を渡つて、大陸の野に轉戰することとなつた。徐州戰、廣東作戰、漢口作戰等到る處に皇軍の威武は遺憾なく發揚された。これがため蔣介石軍は完全に近代軍隊としての能力を消滅し、政府、軍首腦部は遠く四川省の奥地に逃避すると共に、遊擊戰を採用する以外に皇軍に敵すべき術を見出し得ざるに立ち至つたるのである。

漢口作戰による作戰行動が一段階を劃することによつてわが支那事變處理も一段階を劃することとなつた。即ち、廣大無邊の支那大陸において徒らに敗敵を追ひ廻しても勞して效少なく、寧ろ支那本土の樞要地域を確保し、抗日勢力の潰滅戰を續行する一方に、我と提携するに足る支那新政權



の出現を期待し、之を育成し、之と提携して、日、滿、支を樞軸とする東亞の新秩序を確立せんとする消耗戰と建設戰の兩政策が並び進められることになつたのである。

抗日勢力の元兇たる蔣介石勢力に對しては、全支に亘り皇軍將兵が今なほ連續不斷の討伐、掃蕩戰を行つてゐる。去る七月中の戰況を見ると、交戰回數は北支一七五五回、中支二六四回、南支二七六回、總計二千二百九十五回に上り、交戰敵兵力は三十一萬、敵に與へたる損害は約一萬三千、わが尊き戰死者約四百名、負傷約八百名といふことになつてをり、一ヶ月に一千名以上の戰友が今日尙ほ支那大陸の戰ひに傷いてゐるのである。この絕えざる皇軍將兵の奮鬪努力によつて敵の戰力は一日と減耗し、今日では數ヶ月を費やして設備した陣地も、わが一、二日の攻擊で脆くも破れ去つてゐる。

この掃蕩作戰に並行して、一方には對敵經濟封鎖作戰が行はれてゐる。即ち、先きに帝國支那派遣海軍は海上封鎖を宣言したが、爾來之を徹底的に行ふため、佛印進駐、ビルマルートの空爆、中南支沿岸密輸入路の徹底的遮斷、占領地域と非占領地域との隔絕等凡ゆる手段が取られた。このために重慶の財政、經濟は愈々窮乏し、重慶抗日政權崩壞の危險は軍事よりも寧ろ經濟の窮迫より來ると迄稱せられ蔣介石をして、日支事變の解決は軍事三分、經濟七分だとまで言はしめるに至つた。これには英、米も座視するを得ず、その救援に苦慮しつつある狀態で、わが經濟封鎖作戰は著々效

果を收めつつある。

以上の軍事、經濟工作と並行して更に思想工作も進められてゐる。それは第一にわが戰爭目的と戰爭の實施にその誠意が明示されてゐる。

戰爭目的がわが國體精神に發するものであることは前述したが、戰爭の實施においてもこれが具現化されてゐる。卽ち、皇軍將兵は戰禍を無辜の住民に及ぼさしめず、支那古來の悲慘な戰爭を仁慈なる建設の聖戰にするため、刄向ふ輩に對しては已むを得ず劍を振ふが、まつらうものに對しては宣撫の手をさしのべてゐる。ために皇軍の行くところ民心悅服し、その駐留の一日も永からんことを念願してゐる。

先きに五月山西南部に行はれた中原作戰に、北支軍は敵約二十ヶ師の殲滅戰に成功し、赫々たる戰果を收めた。その時敵の高級幹部多數を捕虜とした。その調査によつても明かであつたが、多くは支那事變のわが眞意を誤り敎へられてゐる。日本は支那を亡ぼす爲に攻擊して來た。故に抗戰してゐるのであるといふのが彼等の考へ方である。そこで南京を中心とする新支那の建設されつつあることを實物敎育するや彼等は今更らの如く今日迄の抗日思想の誤れる事を悔悟し麟然として東亞新秩序建設のために努力せんと異口同音にいふところありたるを見ても、わが思想戰の勝利性が明かである。たゞ之をあの廣大にして交通通信の原始狀態にある敵側軍民に徹底させることが實際問



題として困難である。

蔣抗日政權に對するわが作戰は以上の方策を以て進められつつある。

## 三、蔣の抗戰能力

前項ではわが蔣抗日政權の潰滅方策を述べたが、蔣抗日政權は現在果してどの程度の抗戰能力を有するかを玆に檢討して見る必要がある。

先づ軍事的には今なほ兵力として約三百ヶ師約二百二、三十萬を有つてゐる。その兵力配置は全支に亘り戰區を別ち、わが軍に對し消極防衞態度を保持し、一部中國共產軍の監視に當て、一意軍の再建に努力してゐる模樣で、昭和十五年十二月以降第四期訓練を實施してゐる。

兵數より見たる抗日軍隊は、今なほ甚だ厖大なるものであると稱し得るが、その素質の低下せる點、裝備の不良なる點など內容を檢討すればその戰力は戰前の五、六分の一以下に低下しあるものと見られる。その一證據として先般宜昌方面に作戰したわが軍は敵の三十數ヶ師位に對し、僅か一ヶ師團位の兵力を以て悠々作戰してゐる實情である。從つて總兵力二、三百萬と稱するも、その戰力は數十萬の戰力であると考へられる。

敵軍内部の實情は抗戰長期に亘るに從ひ前線將兵の士氣日に日に低下してゐることは蓋ふべからざる事實で、最近の捕虜歸順兵の增加遺棄屍體の減少等の事實によつても敵の戰意が昔日の比にあらざることを知ることが出來る。加ふるに軍の給養補給と云ふ立場から考へたならば、現在の如く大兵力の保持存續は蔣介石にとり極めて大なる負擔であると云はなければならない。これは蔣介石にとり最大の惱みであらう。給養の不良は卽ち軍隊駐留地附近を荒廢し、軍隊をして往年の軍閥時代の軍隊に墮落せしめることは必至である。之は又軍民の間を離間し、軍民の戰爭意識を消磨せしめ、厭戰氣運瀰漫の素をなすものである。

蔣介石もこの惱みを憂へ、種々の對策を講じてゐる。例へば第五戰區湯恩伯軍の京漢線羅山方面への移駐、佛印國境軍隊の入換へなどはその一つの現はれであらう。

次に敵の空軍勢力は如何なる狀態であるかと見るに現有勢力はたかだか二百機、その内第一線機は百機内外であらう。

わが陸海航空隊の勇猛果敢なる奥地進攻作戰に手も足も出ない敵空軍部隊は成都方面の奥地に待避し、專ら勢力の挽回に努力しつつあつた。蔣介石は空軍の再建を以て刻下の急務となし之が擴充計畫を樹立し、その器材は專ら米國及ソ聯より補充を受け、その要員は全國の航空學校及訓練所に於て鋭意速成中であるが、ソ聯よりの補給は獨ソ戰のために事實上中止となり今では專ら米及昨今



多少息を恢復せる英國より補給を受けることに血眼になつてゐる。

昨今東亞情勢の緊張に伴ひ、英、米、ソの三國は重慶空軍の强化に積極的態度を示して來た。これはその目的とするところ對日牽制乃至は防衛のためであつて、重慶空軍の兵力の增强並に豫想せられる對日戰爭の場合空襲基地其他の獲得と云ふことも考へてのことであらう。重慶は英、米、ソのこの意向を利用し、この機會に對支援助を促進し、以て自國空軍の再建を圖らんとしてゐることは明かであつて、重慶空軍は恰も國際抗日空軍であるかの觀を呈してゐる。

之に對しわが陸、海軍航空部隊は去る七、八月の候より奥地進攻作戰を開始し以來天候の許す限り、殆んど連日に亘つて敵抗戰根據地たる四川省を始め各地をも含めて攻擊を實施しつつあつて、敵に多大の損害を與へ、戰果を收めつつあることは、既に累報せられた通りであるが、將來空軍の特性よりして敵性飛行機のわが方に飛來すること絶無とは考へるべきではなからう。

次に經濟的に見たる敵側の抗戰能力を檢討して見ることとしよう。敵側各般の實情に就いて觀るに、その抗戰力が全般的に低下の一途を辿つてゐるのであるが、その中でも一番の弱點は經濟方面にあるものと考へて差支へない。去る三月重慶に於て行はれた八中全會に於て「今後成敗の決定力は經濟七分、軍事三分である。吾人は軍事上に於ては不敗の地位に立てるも、今後の勝敗の關鍵は大半經濟によつて決せられる」と訓示したところから觀ても、この判斷の正しいことを裏付けるもの

であらう。

さて、しからば經濟の弱點はどこにあるかと觀察して見るに、それは支那事變勃發以來引續く法幣の增發と國內諸物資の缺乏並にその流れの不圓滑とによる奧地物價の騰貴等が擧げ得られる。

これは先きにも述べたわが軍の封鎖作戰のためである。昭和十五年度行つたわが宜昌作戰は四川省と湖南、湖北と兩省の連絡路を遮斷し、中支方面における物資搬出入取締の强化、海軍の中南支沿岸封鎖の徹底及佛印、濵緬ルート遮斷、爆擊等の措置により奧地特に四川省における食糧その他生活必需品の急激なる騰貴を來し、所謂惡性インフレの徵候顯著となつた。英米の援助は昭和十五年秋わが日、獨、伊三國條約成立以來積極的援助政策に出てゐるにも拘らず、事實事態は漸次惡化の傾向を辿りつつ今日に至つて居る。特に去る七月二十六日英、米、蘭の對日支資產凍結令の發動はわが軍の占據地區內に於ける對外貿易及爲替取引を英、米、重慶三者協同管理下に置き、日本側の外貨及物資の獲得を防止し、更に舊法幣の對外價値の安定を圖らんとした重慶側に對しては極めて好意ある處置であつたのであるが、實施の結果は意外にも現地英米人は資產凍結に伴ふ情勢不安並商取引の困難等によつて上海を始め各地の在支英米商社の引上げが續々行はれることとなり、わが方が豫ねてから願つて居つた英米經濟勢力の自主的後退が招來された。のみならず舊法幣も第三國貿易の縮少、日本側の統制强化、圓域貿易の擴大豫想のため却つて一時二片臺に迄低落するの窮



狀を暴露することとなり、八月十九日英、米は法幣安定資金を運用して之が救濟策に乘出さざるを得ざることになつた程である。

敵法幣の對外相場は昨今事變直前に比べて四分の一以下に下落した狀態を保持してゐる。しかし肝心の國內物價は戰費の濫出、對外貿易の梗塞、國內物價の不足並その流動の不圓滑等のため暴騰の一途を辿り到底之を緩和する方策を見出すことは出來得ない。卽ち敵法幣の國內價値なるものは對外價値とは遊離して低落し且つわが軍の軍民需品一切に亙る徹底的封鎖と占據地內敵法幣の驅逐とによつて益々その傾向は促進せられて居るのであつて、對外價値も今では名目だけであると云へる。この點が敵側の抗戰力の致命的弱點となるであらうと考へられる。

右の樣な財政經濟の狀態が今後如何に推移するかは各般の情勢特に前述の惡性インフレを克服すべき敵側の對策の成否並に第三國の物的支援の狀況如何により異なるも、今や更らにわが軍が徹底的方策に出た以上、その逼迫困窮の度は加速度的に累加することは必然であると云へる。

かくの如く蔣抗日政權の抗戰力は殆んど斷末魔の狀況に陷つてゐる。從つて之を今次大東亞戰爭に於ける支那事變の價値なるものを考へて見ると、敵性支那を先づ各個に擊破した結果となつてゐるのであつて、吾人の勞苦は決して無意義ではないことが悟られる。

# 四、事變處理方策

南京攻略直後、帝國政府は駐支獨逸大使の斡旋により抗日政權に對し最後の反省を促すべく努めたるに拘らず、頑迷なる彼等一派は之を容れるの明がなかつた。茲に於て昭和十三年一月十六日帝國政府は帝國と眞に提携するに足る新興支那政權の成立發展を期待し、是と兩國國交を調整して更生新支那の建設に協力せんとすとの政府聲明を發表し、更に同年十一月三日廣東、武漢三鎮攻略直後政府は聲明を發し、帝國の冀求するところは、東亞永遠の安定を確保すべき新秩序の建設に在り今次征戰究極の目的亦此に存す。この新秩序の建設は日、滿、支三國相携へ、政治、經濟、文化等各般に亘り互助連環の關係を樹立するを以て根幹とし、東亞に於ける國際正義の確立、共同防共の達成、新文化の創造、經濟結合の實現を期するに在り。是れ實に東亞を安定し、世界の進運に寄與せる所以なり。帝國が支那に望む所は、この東亞新秩序建設の任務を分擔せんことに在りとて支那事變の目的、意義を明確にした。

更らに同年十二月二十二日近衞內閣總理大臣談を以て更生新支那との國交調整に關する根本方針を堂々中外に發表した。



即ち日滿支三國は東亞新秩序の建設を共同の目的として結合し、相互に善隣友好、共同防共、經濟提携の實を擧げんとするものである。之が爲には支那は先づ何よりも舊來の偏狹なる觀念を清算して、抗日の惡と滿洲國に對する拘泥の情とを一擲することが必要である。即ち日本は、支那が進んで滿洲國と完全なる國交を修めんことを率直に要望する。次に東亞の天地にはコミンテルン勢力の存在を許すべからざるが故に、日本は日獨伊防共協定の精神に則り、日支防共協定の締結を以て日支國交調整上喫緊の要件とするものである。而して支那に現存する實情に鑑み、この防共の目的に對する十分なる保障を擧ぐる爲には、同協定繼續期間中特定地點に日本軍の防共駐屯を認むることと及び、內蒙地方を特殊防共地域とすべきことを要求するものである。

日支經濟關係に就いては、日本は何等支那に於て經濟的獨占を行はんとするものに非ず、又新しき東亞を理解し、これに卽應して行動せんとする善意の第三國の利益を、制限するが如きことを支那に求むるものに非ず、唯飽く迄日支の提携と合作とをして實效あらしめんことを期するものである。卽ち日支平等の原則に立つて、支那は帝國臣民に、支那內地に於ける居住營業の自由を容認して日支兩國民の經濟的利益を促進し、且つ日支間の歷史的經濟的關係に鑑み、特に北支及內蒙地域に於てはその資源の開發利用上、日本に對し積極的に便宜を與ふることを要求するものである。日本の支那に求むるものの大綱は以上の如きものである。日本が敢て大軍を動かせる眞意に徹するな

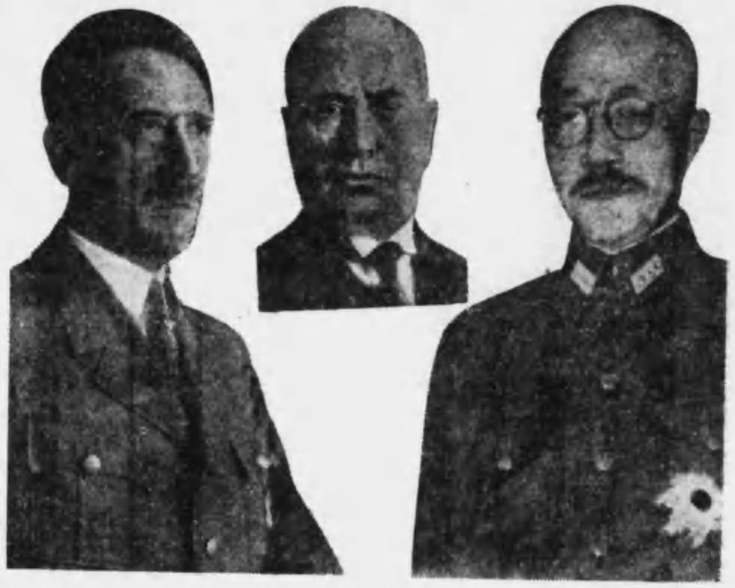
らば日本の支那に求むるものが區々たる領土に非ず、又戰費の賠償に非ざることは自ら明らかである。日本は實に支那が新秩序建設の分擔者としての職能を實行するに必要なる最少限度の保障を要求せんとするものである。日本は支那の主權を尊重するは固より、進んで支那の獨立完成の爲に必要とする治外法權を撤廢し、且つ租界の返還に對して積極的なる考慮を拂ふに吝ならざるものである。

以上の三聲明は帝國不動の對支方針として畏くも聖斷を仰ぎ奉つたものである。今日われわれが之を再讀した時、俯仰天地に恥ぢざる正々堂々たる聲明たることに對し、日本國民として一種の誇りを覺ゆるのである。

この帝國政府の對支處理方針を中外に闡明してより年を閲すること二年、この間わが提唱により共鳴せる支那革命の元勳汪精衞氏等の人士の決死的努力奮闘により樹立せられたる新政府は、皇軍の威武宣揚に伴ひ着々その歩を固め來り、昭和十五年十一月三十日遂に日華基本條約がわが阿部特命全權大使と汪精衞國民政府行政院長との間に調印せられ、こゝに國民政府の基礎が確立し、東亞の新らしい歴史的發足がなされるに至つた。これに引續いて同日午後日滿華共同宣言に三國全權委員の調印を終り、久しく問題となつてゐた滿洲國と中國との關係が明らかにされ、三國が善隣として、東亞の新秩序建設のため緊密に相提携するに至つた。

この日華基本條約は近衞三原則の具體化であり、曩に帝國政府の中外に發表せる對支處理方策の





東條首相　ムソリーニ伊首相　ヒトラー獨總統

具體化に外ならない。

かくして新國民政府は、昭和十五年春成立以來茲に約二ヶ年荊棘の道を歩いて來たが、今や漸く志業の緒に就き、內治、外交に實效を收めつつある。

殊に七月一日獨、伊を始め樞軸側諸國による國民政府の承認は、國際的地位が一躍向上したこととなり、その據つて立つ地盤が支那經濟文化の中樞地域たるだけに、前途の發展は期して待つべきものがある。

かくの如く帝國の支那事變處理はその目的と云ひ、その處理と云ひ、教育勅語に御示しになつた之を古今に通じて謬らず、之を中外に施して悖らざる實に正々堂々たるものである。支那政府を否認し、重慶を認めよと云ふのである。支那

事變勃發以來、皇國一億國民が事變に拂つた努力犧牲は絶大なるものである。この尊き護國の神々の神靈に報いるがためにも、支那事變の完遂は吾人最大の責務である。他の如何なる壓迫、干渉が來つても斷々乎として排除しなければならない。帝國の權威とは之を謂ふのである。

## 五、英國の敵性

支那大陸に於ける戰爭の、複雜特異なるべきことは初めから十分豫想せられてゐた。それは大陸支那の持つ特性そのものと、列强の半殖民地的存在であるところにあることは今さら玆に喋々する迄もなく、事變四年の深刻なる體驗であつた。

英國に對しては支那事變の特性上各方面に種々の摩擦が起り、從つて感情の衝突も諸處にあつて英討つべしの强硬論も一時旺んなこともあつたことは吾等の記憶に新たなるところである。これは洵に無理からぬことであつて、英國が阿片戰爭以來、表に紳士の假面を被り乍ら、內實弱小民族の非人道的壓迫搾取の限りを盡してゐることが、自づと純眞なる我が國民の腦裏に反映した結果であるからである。抗日支那の背後にソと英とがあり、蔣の本心を深く下げればソよりも寧ろ英に深い。彼の心情は苟くも蔣政權の由來を知るものの直ちに判斷し得るところである。又第一線に活躍する

米英洋上會談（ウエルズとルチーヤチるけ於に上號スルエウ）

將兵は英國旗のため幾多戰鬪行爲を妨害せられたことに對し、如何に憤りを感じつつあつたことか。事變の遂行に伴ひ、必然に起る英國との摩擦は歷史的に避くべからざるものであるとは吾等の常識であつた。

英國が支那事變遂行上の一大敵性國であることは吾々が戰場に臨んで始めて悟つたことではない。大英帝國そのものが今日では世界新秩序建設のため人類の妨害者と云ふことになつてゐる。玆に詳述する迄もなく今日迄の世界、就中東洋の近世史なるものは、全く英國の東亞征服史である。これを根本から書き直すにあらずんば、支那どころか東亞の新秩序建設も何もあつたものではない。

然し靜かに考へて見ると、大英帝國の日は

既に沒せんとしてゐる。ユニオンヂャックの旗は日に日に褪せつつある。これは歴史的運命の必然である。殊に今次歐洲戰爭勃發以來英軍は連戰連敗、その本土は常に獨の空、海軍の猛襲に四苦八苦してゐる。これがため彼の東亞政策卽ち對日政策は歐洲戰爭勃發を以て一劃期を現はしてゐる。卽ち支那事變勃發以來極めて露骨なる敵性行爲を發揮しつつあつたものが、歐洲戰爭勃發後と云ふものは表面極めて妥協的態度をとることとなつた。天津英租界問題に對する讓步、ビルマ・ルートの輸送閉塞などその一つの現はれであつた。然し一方アメリカを利用する事によつて依然實質的には東亞政策を保持しつつあつたのである。

しかるに獨ソ戰爭勃發以後獨軍の壓迫緩和に伴つて米國の音頭に從ひ再び對日政策の强化に乘出し來つたのである。

老獪を以て知られる英帝國も今度は愈々濟度しがたいことになつた。

## 六、米國の敵性

次に米國の敵性に就いて述べてみよう。今更ら茲に日米國交の歴史を繙く迄もなく、日露戰爭以後殊に滿洲事變以來彼の對日態度は實に見事にとも云ふべき程、終始一貫せる對日壓迫政策で進んで



來て居る。而も之は何か、對日壓迫永年計畫に基づき壓迫政策を一步一步押し進めて來たとも謂へる位である。

支那事變勃發當初米政府當局の態度は一時比較的靜觀主義であつたと云へる。吾人は當時聊か不可思議とするところであつたが、これは恐らく先きに滿洲事變當時スチムソンが盛んに恫喝宣傳を行つたところが、我が國の嚴然たる態度に何等の效果がなかつたところから、實力を伴はざる威嚇は威嚇にならないことを悟つたがためで自重したのであらう。現に支那事變勃發するやその海軍兵力量の二割を上げ卽ち第二次ヴインソン案なるものを實施に移して居る。偶々事變の初期南京攻略戰に伴ひ米砲艦パネー號がわが飛行機のため敵と間違へられ揚子江上に於て燥沈された事件が突發した。これは米、英國通信員によつて極めて惡意的に煽動的に米國に喧傳せられ、米國朝野の空氣は今にも對日戰端を開かんばかりの勢ひをなした。吾々としては當時死をかけて戰つてゐる戰場の眞たゞ中に如何に中立國の軍艦

蔣軍より鹵獲せる英國製小銃彈

とは云へ、のほんとして居ることそれ事態が間違つて居るのだとの義憤の念を禁ずることが出來なかつたが、當時全般の情勢上われわれは極めて平靜な態度を持し、穩便なる處置がとられたのであつた。

當時は米國爲政者も比較的冷靜な態度であつたと云へる。

しかるに昭和十四年七月天津英租界問題に關する日英會談に際し、英國がわが要求を受諾せんとするや、米國は突如日米通商條約廢棄を通告し來つた。この頃から英國に代つて積極的對日壓迫政策を取り初めた。昭和十四年對日飛行機の輸出禁止を始めとし、逐次軍需關係資材の輸出禁止を强化し始めた。しかし當時は未だ重慶援助に就いて大いなる關心を拂つてはいなかつたと見るべきである。

偶々第二次歐洲戰爭は十四年九月勃發した。今次歐洲戰爭はその外貌は第一次英獨戰爭に似てるがその本質には大いなる相違がある。英米自由主義ブロック國に對する世界革新戰であつて、東亞新秩序建設を目的とする帝國と、歐洲新秩序建設を目的とする獨、伊樞軸側とはその抱く世界觀に於て一脈相通づるものがある。

かくて昭和十五年九月、日、獨、伊は三國條約を締結し、世界新秩序建設の理想を明かにすると共に、現戰爭の擴大防止卽ち米國の參戰阻止を圖ることとなつた。



米國現政府の首腦部ルーズヴェルト大統領及びその一派は、その抱く個人的思想傾向なるものは明かに米國の國際孤立派卽ち戰爭回避派に對し反對する所謂國際協力主義者であり國際干涉主義論の急先鋒である。

か樣な主義思想を抱く現米國政府首腦者が獨逸軍の連戰連勝と歐洲戰爭勃發に伴ふ日本の立場の有利化とを好む筈がない。

日、獨、伊三國條約の成立を見るや米國（英も）の對重慶援助は俄然積極化するに至つた。卽ち右同盟成立の企圖を察知するや、その調印に先ち九月二十五日對重慶援助として二千五百萬弗の對支借款を供與し（英國は十月十七日雲南濵緬公路輸送禁絕に關する日英間の取極の期間滿了を待つて、翌十八日同公路を再開した）爾來英米兩國は重慶に對し凡ゆる援助を惜まざると共に太平洋に於ける防備完成に協力し所謂A・B・C・D共同防衛を企圖するに至つたのである。かくして蔣介石が支那事變勃發以來祈念して已まなかつた對日包圍陣の實現を漸くにして見るに至つた。

次で昭和十五年十一月三十日帝國政府が豫ねての支那事變處理方策に從ひ南京政府の承認及日華基本條約を締結することとなるや、米國は更らに一億弗の對蔣借款供與を發表し之が報復處置をとり且つ南京政府不承認の態度を明かにした。

その後歐洲戰爭は樞軸側に有利に展開し、東亞に於ける帝國の諸外交政策も豫期以上順調なる進

展を見るに至つた。即ち昭和十五年九月にはわが軍が佛蘭西政府の同意の下に北部佛印に進駐し、又昭和十六年三月には泰、佛印國境紛爭調停斡旋に首尾よく成功し、更らに五月には、日、佛印經濟協定成立し、又更らに四月十三日には松岡外務大臣の手腕によつて日ソ中立條約が成立するなどこれ等は共に帝國が日と共に東亞の指導國家たるの實錄を如實に示せるものである。ところが之に對し、あの小癪なジャップめが生意氣千萬だといふのがアメリカの多數を支配する空氣であると云ふても過言ではない。

昭和十五年以來小林及芳澤兩使節によつて行はれた日蘭會商が昭和十六年六月遂に決裂狀態に立ち至つたのも蘭印當局の不誠意と云ふよりも、寧ろ米及英の策謀によることは推測の誤りではない

獨ソ開戰後帝國が如何なる態度に出るかは世界列强の齊しく注目するところであつた。北を突くか、或は南に出るかと憶說が傳へられた。その中にわが政府當局は極めて愼重にしてしかも溫和なる方策を取つた。それは先づ佛本國政府と佛印共同防衛議定書を締結、之に基いて軍を南部佛印に平和的に進駐せしめた。ために第三國をして干涉の餘地を許さなかつたのである。

しかるに米國政府當局者は早速英、蘭を誘ひ對日資產凍結令を發動して、經濟斷交の强硬手段を實施した。一方重慶に對しては各種の使節を派遣し經濟的に留まらず軍事的にも蔣介石軍の援助に乘出したのである。



抑々近代戰は國家總力戰の型態で行はれることは萬人の常識である。經濟封鎖戰なるものは武力戰と並行して行ふ戰略の重要手段である。經濟斷交は則ち戰爭挑發であり、近代式宣戰であるのである。ルーズヴェルト大統領は七月二十六日之を敢行した。

## 七、ソ聯邦の動向

支那事變勃發に至つた思想的原因は支那の抗日思想であり、之は又コミンテルンの指導する支那共產黨の運動に基くものなることは今更茲に說明する迄もないことである。

蔣抗日政權が武力的に見て勝算なきに拘らず、南京陷落直後日支和平の機會を敢へて放擲した所以のものは、當時日ソの間相當險惡なるものがあり、上海戰酣なる時、ソ支不可侵條約の締結せられるなどによつて、蔣介石はソ聯の武力援助に多大の期待を抱いて居つたものと考へられる。事實重慶空軍の主體を構成し、各戰線に軍事顧問を入れ、直接わが軍に抵抗するなどの事實があつたのみならず一方滿蒙國境方面に於ては、過大なる軍備を擁し、わが對支作戰最高調に達しある際に乘じて張鼓峰事件、ノモンハン事件を惹起し、陰に陽に蔣介石援助を行ひ、以て日支戰爭の長期化を圖りつつあつたことは吾人の極めて印象深きことであつた。

而も又歐洲戰爭勃發當初獨英戰爭の長期化を圖り之により漁夫の利を占めるを得しめ、世界をしてソ聯邦は天國とならうと羨望せられたのも束の間、獨逸軍は西歐洲全土を席卷し、いやが上にも威武を輝かした。之に脅威を感じたソ聯邦政府當局者は漸次東亞政策を緩和するの氣運にあつた。帝國も亦當時世界情勢の變轉によつて、南方政策を推進するの必要も生じ、茲に北守南進の大乘的見地から、昭和十五年四月十三日ソ聯邦と中立條約を締結することになつた。中立條約締結後ソ聯邦の支那事變に對する態度はその實情より見れば多少援蔣工作を控へ目にした模樣でもあるが、之を全然一擲する迄には到つて居ない。依然として西北ルートによる物資の供給、空軍援助を行ひつつあつたのである。しかし最近はモスコーも危いこととなり、援蔣工作を行はんとするも不可能だと云ふ窮況にある。日本が太平洋戰爭を遂行するに方つて、英米の援助を受けつつあるソ聯が如何なる態度に出るかは世界關心の的である。帝國としては之に對しても萬全の用意を怠つてはならない。

## 八、敵性國に對するわが態度

以上英、米、ソ聯等の支那事變を通じて見たる敵性政策なるものを概說した。之に對し帝國は今日迄如何なる態度を以て臨んだであらうか。これには專ら外交工作によつて支那事變遂行を阻害す



る敵性行爲の阻止を圖つたのである。人或は云ふであらう。今更らわが外交工作で聞き入れる樣な相手ではない。須らく武力によつて斷乎その根源を絕なねばならぬ。この種强硬論も多かつた。理論としては誠にその通りであるが、一面にはわが國力を考へ、一面には二、三面戰爭に陷る不利を成るべく避けなければならない。茲に於いてか、今日迄の戰爭指導は全般的に見て、支那事變の完遂に極力努力すると共に、一面此等敵性國家に對する國力の充實就中戰力の充實强化を圖り萬一に備へると云ふ樣に二樣の戰爭準備が行はれて來つたのであると考へる。見方によれば此等敵性國家は近代的三國干涉であるのであつて彼等がその敵性を改むにあらざれば何づれの日にか衝突することあるは當然の理であつて、唯々わが國力充實せず戰備整はざるに、こちらから進んで過早なる衝突は極力避くべきであるとの遠謀深慮より、當局としては一見甚だ軟弱なるが如くに見える愼重なる陰忍自重的態度卽ち專ら國力就中戰力の充實主義を採つて以て今日迄來つたのである。

これがために敵性國の眼に餘る敵性行動に勘忍袋の緒をしめたことは一再ではなかつた。

上海外國租界や、香港を根據地とする敵性行爲の數々又はビルマルートによる援蔣物資輸送など現に行はれつつある事實である。

しかし情勢は今や好むと好まざるとに拘はらず最後的根本的對策を斷行せざるを得ざる時期が到來した。

支那事變は當初豫期せられたる通り單に日支の問題として解決し得ず、世界戰爭の一環として解決せられると云つた言葉の通りになつた。

英米對日敵性國の力によつて事變の解決を圖りつつあつた蔣介石としては、一應その希望してやまなかつた世界戰爭が展開せられた。しかしその喜びも、やがて一つの迷ひであつたことを皇帥によつて悟らしめられる日が近く到來するであらう。

## 九、東亞共榮圈確立の必要性

これ迄はわが國策の中心をなす支那事變の解決及之が敵性諸國の動向を述べたのである。更らに之に次ぐ東亞共榮圈確立の必要性に就て世界情勢の變轉から來た必然性と近代戰の特性たる國家總力戰遂行の見地から述べて見たいと考へる。

わが帝國の國策なるものを見るに、當初は支那事變の解決のみであつた。支那事變第二年の末、漢口作戰終了直後、近衛政府の發表したる東亞新秩序建設なるスローガンは日、滿、支三國を根幹とする新秩序建設である。之は經濟的には日、滿、支三國の資源開發により國防國家の物的方面の基礎を建設せんとするもので、現に行はれつつあるわが第一次生產力擴充計畫はこれである。只しか



し何分にも時期尙ほ早く、資源開發の緒に就かんとする黎明期であつて、緊迫せる昨今の情勢に對し今直ちに國防の要求に應じ得ざる憾がある。又一面石油、ゴム等相當缺如せる重要資源も認められてゐる。

今日迄この國防資材、資源の不足分は、極力生產力の擴充に努力し自給自足力を向上する一方之を諸外國よりの輸入に仰いで居つたのである。第三國よりする國防關係物資の輸入は年總額にして二、三十億に上る。之をわが國現下の總生產額に對比したならば、その一、二割に過ぎない少額なものである。然しその含む物資は多く、現下の急迫せる情勢下に於ては極めて重要なる價値を有するものである。卽ち米國方面より來る石油、屑鐵、銅、ニッケル、各種機械類。比島より來る鐵鑛、マンガン、クローム、麻、英國領植民地から來るものとしてはカナダのニッケル、英領マレーの鐵、錫、ゴム、ボーキサイド。蘭印方面から來るゴム、石油、ボーキサイド、錫。獨逸から來る機械類、化學藥品、化學肥料等がそれである。之が爲め外貨獲得の必要が叫ばれ、輸出の振興、政策が强化せられたことは、つい最近迄のことであつた。しかるに事變第三年半にして吾人の豫想以上に早く到來した第二次歐洲戰爭は漸次これ等諸外國よりの物資獲得の困難性が增大した。特に支那事變、歐洲戰爭が世界新秩序戰たる本質を明かにしてから、卽ち昭和十五年九月三國條約成立を契機として英米、蘭等の所謂自由主義ブロック群は對日經濟壓迫を政略の手段として積極化し來つた。又六月勃

發した獨ソ開戰は樞軸國側よりの資材の獲得も不可能となつた。茲に於てわが國としては多年海外依存の經濟體制より、日本を中心とし大陸及南方地域を含む大東亞共榮圏の物資の開發によつてのみ國家の存立を維持全ふし得る事となつた。實に世界情勢の變轉就中英米の對日經濟壓迫が、かく帝國をして南方を含む東亞共榮圏の必要性を痛感せしめたのである。

英國の權益に隱れ抵抗せるカチートの軍那支

以上は世界情勢の變轉就中英米の對日經濟壓迫のため、わが國が單に大陸問題の處理のみに沒頭し得ず、南方問題卽太平洋問題にも重大關心を拂はざるべからざるに立ち至つた經過を概說したのである。見方によれば太平洋問題の解決なくして、大陸問題の解決はないとも云へる。

之は又近代戰の特質から見れば極めて明かなことである。近代戰の特徴は申す迄もなく、高度の科學戰である。產業戰である。技術戰である。しかしその根本的なものは矢張り資源である。資源



の中でも石油資源の必要が痛感せられる。飛行機、戰車、艦船の血液であるこの石油が我が國には遺憾ながら乏しい。これを今日迄敵性英、米勢力圏から供給を仰いで居つた。これでは國防の基本條件に於て缺陷があるわけで、茲に石油資源を有する南方をわが國防圏の一環とせざるべからざる必須の要求が生れて來たわけである。

かくして日、滿、支及南方地域を含む東亞共榮圏なるものが今日わが國が世界世局に處せんがために生存上、自存自衛上絕對の要求となつた。

これは獨り我國が廣地域共榮圏を設けんとするものではない。今次の歐洲戰爭は明らかに獨、伊による歐阿廣域經濟圏設定を目ざす戰爭であり、米國も亦南北米洲を打つて一ブロック化せんと努めつつある等、世界的趨勢と謂へる。

近衞政府が先きに發表せる基本國策要綱の冒頭に「世界は今や歷史的一大轉機に際會し、數個の國家群の生成發展を基調とする新たなる政治、經濟文化の創成を見んとす」とあるのはこれである。

然らば東亞共榮圏の地域はどれ迄を云ふか。之は國防資源の見地からと國防戰略上の立場とから見れば大體に於て外南洋卽ちマレー、蘭印、フィリッピン等を包括するを要し大陸と海洋との兩存政策たるところに特色がある。その事實上の範圍は一に帝國の勢力の强弱に左右せられるものであつて、今日迄のところ佛印及泰の若干程度に及んでゐるに過ぎないものと云へるのである。

## 一〇、わが南方政策

以上東亞共榮圏の確立の必要、南方圏の重要性を述べたのである。近時南方問題がわが國輿論の焦點となつたのも、國家生存上の必然性が生んだ必然の結果と云はなければならない。

一面南方諸邦を眺めた時不思議と一樣にその本國は敗れたか又敗れんとしてゐる。佛印の本國佛蘭西、蘭印の本國和蘭、英領マレーの本國英國これである。

世界最精鋭の陸海軍と、世界第三位の船舶とを有する我が國の實力を以てするならば此等を武力占領することは易々たることである。

しかるに帝國政府は皇國の道義性に基いて、飽く迄も平和的に南方政策を進め來つた。即ち日蘭印交渉、日佛交渉、泰佛印紛爭調停などこれである。

日蘭、日佛印兩交渉共に有無相通の經濟協定を主體としたものであることは今茲に喋々する迄もない。この交渉は彼等に利益を齎らせ、決して損を招くものでも何んでもない。否これ等地方の住民はわが國の安價なる日用物資によつて生活を維持して居つたものである。我が恩惠に浴することは極めて大なるものがある。

しかるに蘭印當局は頑迷無禮にもわが誠意を解するの明なく、英米の威を賴んでしきりに戰備を



整へつつある。亡びゆくものの末路はかくも哀れなる哉と長歎息せざるを得ない。

英領マレー、比島の如きもその產する鐵鑛、ボーキサイド等これ亦我が國との交易によつてのみその存在價値がある。然るに今や英米當局によつて貿易は杜絶せしめられると云ふ極めて不自然な事態に置かれることとなつた。

歐米流の筆法を以てせば、歐洲戰爭の好機會に乘じ、日本は有無を言はせず直ちに武力占領すると思つたのも無理がない。之を行はざりし所以のものは、わが道義精神に外ならない。道義の何物なるかを知らざる唯物主義の英米蘭は之を以て日本に實力なしと結論しつつあつた。果して實力なきや否や。今や實地實物教育以外に教へる道がないことになつた。

## 一一、A・B・C・D包圍陣

我が軍の脅威に慄く比島首都マニラ

去る七月二十五日皇軍は日佛共同防衛の協定に基づいて南部佛印に進駐した。これは蘭印やシンガポールとしては慥かに脅威を受けた事であらう。わが親善政策を無視する以上、已むを得ないことである。しかしこれは米國には何等關係のない問題である。東亞の局地的問題に過ぎない。しかるにルーズヴェルト大統領は英國及蘭印を語らひ、一齊に對日資產凍結令を發動した。卽ち貿易を杜絕せしめた。單に經濟壓迫の手段に留まらず、軍事的にも對日戰備の强化に大童の有樣である。丁度此等敵性國の名前、アメリカ(米)、ブリテン(英)、チャイナ(重慶)、ダッチ(蘭印)の頭文字がABCDとアルハベット順に並んで居るところから所謂ABCD對日包圍陣と云ふ新語が世界的に流行する樣になつた。この所謂ABCD對日包圍陣なるものの張本人はルーズヴェルト大統領である。そこで今この人の抱く考へ方なるものを一應知ることとしやう。

日本の大陸政策なるものの特徵は反民主主義的アジア主義で、日本は之が實現には手段を何等選ばないと考へてゐる。

わが道義に卽した支那事變處理なるものは彼にはさつぱり理解して居らないか又分らないのは唯物教育だけのアメリカでは無理もないことであらう。

「攻擊は最善の防衛である」との箴言は獨逸に對してのみならず、日本にも適用しなければならない。そこで政治の裏付なき經濟政策は意味がない。政略の手段としての對日經濟壓迫、援蔣政策でな



ければならない。之がためには米一國ではそれを實施しても效果がない。世界的に徹底しなければならない。卽ちABCDを一齊に動員し、更に中南米諸國に强要し、泰佛印を脅迫してこの運動に參加せしめなければならない。かくすることによつて日本は經濟的に窮迫し極度の混亂に陷り、その稱する東亞新秩序建設なるものは全く崩壞する。經濟戰だけで日本は屈する。

この經濟戰を主體とし、軍事的に宣傳戰的に日本を壓迫したならば久しからずして降伏するであらうと斯樣に考へて居るものと思ふ。

これはルーズヴェルト大統領の考へであり、米國言論界を風靡する思想である。もつと簡單に言へば「ジャップ生意氣だ」と云ふ東洋人蔑視思想から凡てが出て居るのである。

米國現政府筋の考へ方はさうであるが、米國內の一般空氣はどうかと見るに、之とは大部趣を異にしてゐる。東部諸州の如き東洋問題に關係ない地方は言論機關の煽動に踊らされてゐるが中部、西部諸州の如き日本と關係ある地方では對日貿易杜絕より來る經濟的損失を受けてゐるため極めて冷靜である。現に石油關係十萬、生糸關係二十萬の失業者が增した。從つて歐洲戰爭や支那問題のために戰爭に捲き込まれることには殆んど關心を持つて居ない。十月のギャラップ輿論調査によつても對日戰爭を希望するものは三〇パーセント臺であるところより見ても、これらは明かな事である。

由來アメリカの弱點は國内問題である。民族の合衆國たるところに思想統一の困難さがある。米國爲政者の惱みはそこにある。之を對外强硬政策によつて引張つて行かうとするところに非常な無理が生ずるわけである。しかし米國は今や全くルーズヴェルトの獨裁國と化した。英國や重慶の策動に踊る彼こそは第二次世界大戰の最高の責任者であると云はなければならない。

英國は對獨戰爭に苦心慘憺してゐることとて米國の樣に露骨な態度は差控へてゐた。シンガポールを中心とする東亞植民地は英國の心臟であり腹である。これが喪失は英帝國の大いなる打擊である。太平洋戰爭は歐洲戰爭以上に心配である。出來得る限り之は避けなければならないと云ふのが彼の肚の中での考へである。しかるにその行ひつつある手段は何ぞ。泰國境に兵力を增强し、ビルマの戰備を進め濠洲、印度迄も動員して鳴物入りの宣傳で對日戰備を固めつつある。のみならず在留邦人に不法壓迫を加へ、最近爲政者の言動は極めて高慢な對日威嚇的なものとなつた。

平時壓迫搾取されつつあるビルマや、印度兵が戰時果して英國人のために死を捧げて呉れるかどうか。

蘭印當局の頑迷なる態度は先きにも述べたこととて多くを言ふ必要はないであらう。

かくの如くABCDなるものが一齊に聯携して對日敵性方策を日に日に强化する以上、帝國としてじつとしてゐるのではヂリ貧狀態に陷つてしまふ。何んとか話合をつけるか又は之を斷乎として



突破する以外に生きる道はないことになつた。

## 一二、日米會談

かゝる情勢の下に於て帝國政府は四月以來對日壓迫の元兇たる米國政府に對し太平洋の平和維持に就いて打解策の檢討を試みつつあつた。米國の當局者も當初は、相當熱意を持つて會談に當りつつあつたが、途中、重慶から泣きつかれたためでもあらうし、又先にも述べた樣に、考への根本に於てどうしても解らないと來て居るから、この交渉は當初から豫想せられた樣に非常に困難なものであつた。しかしわが政府當局者は兎に角最後の一分間迄わが誠意を披瀝して努力して見ようとて今日に至つた。ところが去る十一月二十六日ハル長官より野村大使に與へた文書によると、相變らづ架空な原則を並べたものであつて、わが努力も今や全く水泡に歸した。事態はこの時既に最後的段階に這入つてゐたのだが、先方では日本は戰爭を決意するなぞといふことは夢位にしか思つてゐなかつたのである。

日米會談の內容は久しく秘密にせられたが開戰と同時にその內容が發表せられた。それによれば帝國政府が兩國國交の破綻を回避する爲最善の努力を竭したことがありありと分る。前後の經緯は

略し十一月二十日のわが方の提案を次に述べて見よう。

大東亞戰爭の緒戰に於ける赫々たる世界戰史に類例なき我が戰果

一、日米兩國政府は孰れも佛印以外の南東亞及南太平洋地域に武力的進出を行はざることを確約する。つまり南方作戰は絶對やらんと云ふわけである。

二、日米兩國政府は蘭領印度に於て其必要とする物資の獲得が保障せられる樣相互に協力する。

三、日米兩國政府は相互に通商關係を資產凍結前の狀態に復歸せよ。米國政府は所要の石油の對日供給を約する。つまり經濟斷交を止ようと云ふのである。

四、米國政府は日支兩國の和平に關する努力に支障を與へる樣な行動に出ない樣にせよと云ふのである。



五、日本國政府は日支間に和平が成立するか又は太平洋地域に於ける公正なる平和が確立したならば、現に佛領印度支那に派遣せられた日本軍隊を撤退することを約束する。日本國政府は本了解成立したならば現に南部佛領印度支那に駐屯中の日本軍は之を北部佛領印度支那に移駐するの用意があることを闡明する。

と云ふのである。之を讀んだ時、誰しも非常なわが讓歩だと感するであらう。

之に對して、ハル國務長官は帝國が三國條約との關係を明かにし平和政策採用を確信するに非ざれば右第四項を受諾し援蔣行爲を停止することは不可能であると云ひ、又大統領の所謂日支間和平の「紹介者」たらんとの提案も日本の平和策採用を前提とするものなる旨を述べて第四項つまり日支問題に就いて大なる難色を示したのである。

我方は野村、來栖兩大使をして國務長官に對し大統領の紹介に依つて、日支直接交渉開始せらる場合和平の紹介者たる米國が依然援蔣行爲を繼續しようとするのは平和成立を妨害するものであつて其態度に矛盾あることを指摘して米國政府の反省を要請せしめたのである。

然るに此間米國政府は英濠蘭及び重慶代表と協議して、十一月二十二日國務長官は兩大使に對し南部佛印よりの撤兵のみでは南太平洋方面の急迫した情勢を緩和するに足らないとの旨、竝に大統

領の所謂日支間の紹介は時機未だ熟せずと思へると云ふことを述べて來た。

米國政府は其後も前記代表と協議を重ねて居つたが、二十六日國務長官は兩大使に對し二十日の我提案に付ては愼重研究を加へ關係國とも協議したが、遺憾乍ら同意し難しとて今後の交渉の基礎案として大要左の如き案を提出した。即ち

一、日米相互間に於て實際に適用すべき根本的原則として政治關係に於ては前述の四原則を再述したが唯其の中第四點に就ては紛爭の防止及平和的解決並に平和的方法及手續きに依る國際狀勢改善の爲の國際協力及國際調停に遵據する原則と改める。つまり、これはルーズヴェルトの得意とする國際協調主義の表はれである。經濟に於ては主として前記政治的原則の第三即ち通商上の機會均等及平等待遇の原則を敷衍したものとする。そこで

二、日米兩國政府の採るべき措置としては

イ、日米兩國政府は英、蘭、支、蘇、泰と共に多邊的不可侵條約の締結に努める。

ロ、日米兩國政府は日、米、英、支、蘭、泰國政府との間に佛印の領土主權を尊重し佛印の領土主權が脅威される場合には必要なる措置に關し即時協議すべき協定の締結に努める。

右協定締結國は佛印に於ける貿易及經濟關係に於て特惠待遇を排除し平等の原則確保に努める

ハ、日本政府は支那及佛印より一切の軍隊（陸、海、空及警察）を撤收せよ。これなどは全く語



るに落ちた話で問題にはならない。

ニ、兩國政府は重慶政府を除く如何なる政權をも軍事的、政治的、經濟的に支持しない。つまり南京國民政府を否認せよと云ふのである。

ホ、兩國政府は支那に於ける治外法權（租界及團匪議定書に基く權利を含む）を拋棄し他國にも同樣の措置を慫慂せよ。

ヘ、兩國政府は互惠的最惠國待遇及通商彈壓低減の主義に基く通商條約締結を商議せよ（生糸は自由品目に置く）

ト、兩國政府は相互に資產凍結令を廢止する。

チ、圓弗爲替安定に付協定し兩國夫々半額宛資金を供給す。

リ、兩國政府は第三國と締結し居る如何なる協定も本協定の根本目的即太平洋全地域の平和確保に矛盾するが如く解釋せられざることに付同意する。つまり三國條約を死文にせよと云ふのである。

ヌ、以上の諸原則を他國にも慫慂することを提案した。

これを架空の原則と云はずして何ぞやである。日米會談はかくて十一月二十六日を以て實質的には決裂した。わが事は終れりである。今にして思へば、日米會談は野村、來栖大使の獻身的活動と

相俟ち、中外に皇國の誠意ある立場を闡明し、米國現政府首腦部の餘りにも横着な態度を知らしめ、日米戰爭の意義を世界に徹底する好機會であつたのである。現にハースト系新聞はルーズヴェルトの東亞干涉政策の無用論を高調し、對日宣戰布告のため上下兩院議員を召集したが、反對投票があつたのも、その效果が既に敵國内に現はれてゐる證據である。

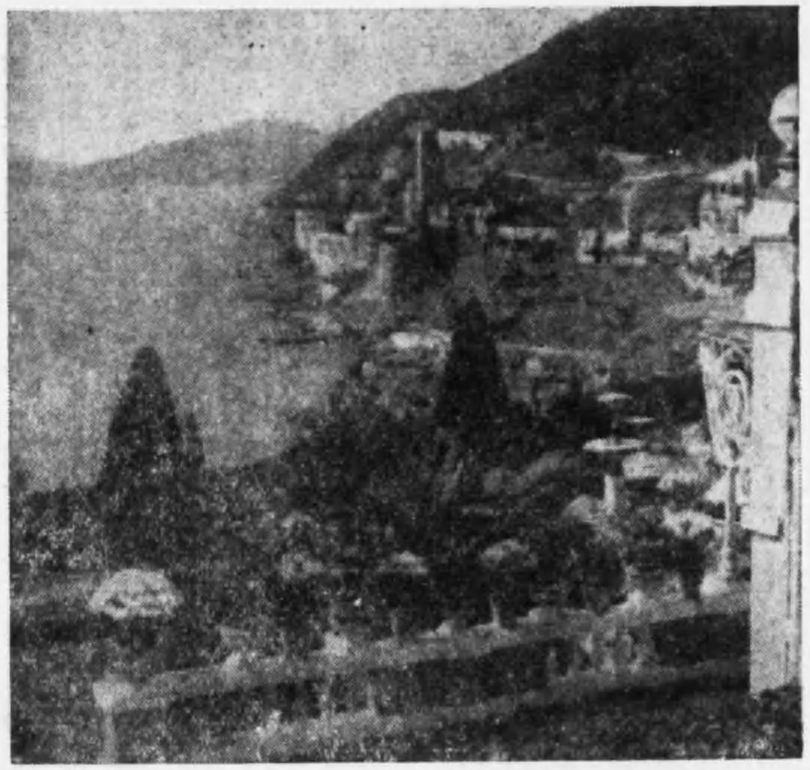
## 一三、對米英宣戰布告

情勢は刻々緊迫した。息詰つた。次に出るものは何かと見守りつゝあつた矢先に、宣戰の大詔は渙發せられた。遂に斷の時は來た。支那事變を、東亞新秩序の建設を、ルーズヴェルトの干涉壓迫によつてやめることは日本男子の面目が許さぬ。萬策は盡された。よし、かくなつた以上は一死奉公の誠を致さんのみ。日本國民たるもの誰かこの決意なからんや。

皇國二千六百年の歷史上に四つの大國難があつた。元冠、幕末維新、日淸、日露戰爭之である。元冠の役には時の世界の覇者元を向ふに廻して鎌倉武士と西國の父祖が戰つた。執權北條時宗の決斷、亀山上皇の御祈願あられた故事は我等の忘れることの出來ない歷史である。

幕末維新は歐米東亞侵略最盛期に、德川封建三百年桃原の夢が破られたのであつた。薩長の武士





英國東亞侵略の最終最後の根據地である香港に於けるくなき搾取に依つて礎かれたる豪壯華麗を誇る英人の住宅區域

どもが、臺場に釣鐘を並べて戰つたことも吾等の忘れることの出來ない歷史である。

日淸戰役は當時自他共に許した老大國淸を相手とする「ジャパンは支那の東にある長い島國である」と百科全書に僅か一、二行に書かれて居つた小國日本の戰ひであつた。長くも明治天皇は大本營を廣島に進め給ふたことは我等の忘れることの出來ない歷史である。

日露戰役は當時世界最强の陸軍を以て自他共に許した露西亞を相手としての戰ひであつた。

日露戰爭宣戰の詔勅を吾等は拜讀して今更ながら當時國難の如何に深刻なりしかを知る。旅順二〇三高地攻略のために使ふべき二十四糎榴彈砲は國民の赤誠によつて造られたもので、今尙ほ士官學校の校庭に當時を偲ばしめてゐる。歷史は繰り返へす。

今や展開された大東亞戰爭は卽ち世界の大國を相手としての戰爭である。三世紀の永きに亘り世界をその經濟力によつて掌握し來つた金權國である。その軍備も、數に於て我れに優るとも決して劣るものではない。對手に不足はない。而もこの對米英戰爭は太平洋の戰ひが主體となる。太平洋は驚く勿れ、アジアの四倍、支那の十八倍と來てゐる。雄大なる大戰爭である。海上飛行部隊にとつても大き過ぎる大舞臺である。

「皇國の興廢此の一戰にあり、各員一層奮勵努力せよ」のZ信號を掲げて以來茲に四十年、默々として訓練に訓練を重ねつつあつた帝國海軍が、愈〻太平洋の彼方に向つて姿を消した。全員生還を期せず。「海行かば」の曲は胸一杯にしみ渡る。熱帶の瘴烟蠻地にあらゆる辛勞を克服して戰ふ陸軍部隊、遠征將兵は元氣一杯で珍らしい風物に日の經つのも忘れて居る。然し唯一つ忘れることの出來ないものがある。どうか家に殘した家族のことは賴むと、これは出征將兵心からの叫びであらう。



## 一四、大東亞戰爭の前途

大東亞戰爭開戰第一日。この日日本晴。午前六時、大本營陸海軍部より「帝國陸海軍は今八日未明西太平洋において米英軍と戰鬪狀態に入れり」と發表せられた。將に歷史的ニュースである。いよいよ始まつた。全身の血湧き肉躍るのを覺える。

次いで「帝國海軍は本八日未明ハワイ方面の米國艦隊並航空兵力に對し、決死的大空襲を敢行せり」との發表があつたのには、驚かされた。西太平洋どころではない。しかもこの大奇襲作戰の戰果は、實に戰史にその比類を見ない赫々たるものであつた。戰艦三隻は瞬時を出でずして轟沈、他の四隻は大破し、さらに大型巡洋艦四隻を大破した。如何に傲慢な敵も之には戰慄せしめられたことであらう。この外シンガポール、グアム、ウエーク、マニラ、ボルネオ、香港等西太平洋の全域に亘つて戰鬪が展開せられてゐる。支那に於ては上海を始め、北京、廣東等各地の英米軍艦艇を武裝解除した。九日には陸軍部隊が泰國に無血進入に成功、マレー、フイリツピンの敵前上陸に成功、敵の艦船二百隻以上を拿捕する等、續々として戰勝のニュースは來る。

緒戰には勝つた。豫想以上の成功であつた。かくして大東亞戰爭の初期は皇軍の連戰連勝に吾等

は欣喜雀躍することが出來るであらう。否、われ〳〵だけではない。傲慢なアメリカ人を嫌つて居る人は世界到る所に居る。これ等の人々は心私かに快心の笑を洩したことであらう。

大詔渙發の日刻々傳へられる未曾有の戰果に擴聲器の前に集る集群

戰爭は始まつたばかりである。戰局の前途が如何に進むかもとより知り得ないが、恐らく海上に於ける敵艦隊の殲滅戰と、陸上の敵の據點シンガポール、香港、マニラ等の要塞攻略戰が展開せられるであらう。陸軍部隊の上陸地點から目ざす目標までは未だ遠い。將兵は炎熱と熱帶特有の山地密林濕地帶の勞苦を克服して進擊を續けてゐる。強襲戰法で押すか、或は封鎖戰法でやるか、何づれにするも無援孤立の敵、急ぐことはない。一方上陸作戰は太平洋到る處に行はれるであらう。上陸作戰は皇軍の特質を現はす陸、海、空一體の協同作戰である。わが數千



の輸送船舶は南方作戰の母として、第一線將兵と共に、不眠不休で活動中である。

敵は米軍、英軍である。マレーや、インドや、フイリッピンの兵隊さん達は、日本軍を迎へて「友あり遠方より來る」と云ふ樣なことにならぬとも限らぬ。南方諸邦の住民は、支那大陸とは大分氣質が違ふ。一般に温和、宗教心厚く、佛教、回々教、カトリック教が今尙ほ住民の生活を支配してゐると云つてもよい。從つて治安の維持は容易であらう。たゞマラリヤを始め各種の熱帶特有の疫病が將兵を苦しめるであらう。

以上南方作戰の概貌を述べて見たのであるが、われわれはこの作戰の勝利のみを以て、對英米戰爭に勝つたと考へては早計である。何んとなれば英國は別として、米國としてはフイリッピンやグアムや乃至はハワイを失つたところで、これは東亞に出した觸角を失つただけの事である。英、米としては地理的に孤立無援の此等の地點に有力なる兵力を出した事は、皇軍の好餌となるだけの事であつた。英米でも東亞戰爭の不利なる點に就いては識者によつて夙に論ぜられて居つたのである。

一方敵はこの戰爭をどんな具合にやつて行くだらうかと云ふことを十分研究する必要がある。今一寸考へられる事は、作戰的には今直ぐ決戰行動に出ないで、所謂海上ゲリラ戰を專らやるであらう。航空機、潛水艦を以て南支那海方面や又は北方海面に於けるわが船舶の航行妨害をやつたり、或は島嶼の占領に力めるであらう。絕えず海戰と空中戰が行はれる。時には勇敢にもわが國土の空襲

に來るであらう。玆に述べておきたい事は制海權にしろ、制空權にしろ、之は一時的に又局所的には把握することが出來るが、敵を完全に參らせるまで、絶對的にと云ふことは不可能である。支那事變が海上に移つたと云ふことになる。この作戰と並行して軍備の擴充を日に夜を次いで行ふであらう。現に米國當局者は爆擊機を一日一千臺造ることにしたと宣傳してゐる。持てると威張つて居る敵も、これから資源に不足を來し、自由主義に反する統制經濟をやりださざるを得ないであらう。國内には不平不滿の聲が沸く。一體何のために戰爭する必要があるかと反對論が日と共に多くならう。しかしこれは戰爭遂行を阻止する程度迄には達しないであらうが、可成りの妨害となるであらう。ルーズヴェルトとしては外の戰爭よりも、その方に苦勞させられることであらう。兎に角金の力で凡ゆる手を打つであらう。先づ軍艦の建造、飛行機の增產に戰勝唯一の望みを託して努めるであらう。その他ソ聯を唆したり、わが國内にもあの手、この手を使ふのであらう。そうして愈々日本に對し絶對優勢になつたと自信がついた時、斷乎として、大攻勢に轉じ、最後の勝利を得よう。一寸薄介石の戰法を眞似てゐるが、か樣に今後の戰爭を進めて行くのではないかと一つの判斷を下し得る。

之に對し日本は如何に戰爭を遂行すべきか。大體のことは常識で判斷される。大東亞建設戰の作戰は日と共に擴大されるであらう。それと共に英米から買つて居つた不足物資は、日一日と確實化



す、共榮圈内に於て求め得られるであらう。そして作戰が一段落した頃には共榮圈内の產物は概ね昔の樣に共榮圈のために利用厚生し得るであらう。しかしそれ迄には相等の困難と時日とを要することであらう。かくてこの戰も支那事變と同樣戰ひながら、建設し、建設しながら戰ふと云ふ戰爭になるであらう。敵の軍備擴充に對し、吾も亦之に對する陸、海兵備の充實は今後益々必要となる。特に航空機、艦船は必要となる。依然として國費は膨大の一途を辿る。勤勞と消費の節約、しかして貯蓄を益々强行する事が、わが財政を堅持する要素となる。一方には英米貿易杜絶による轉廢業者問題の解決もある。かく積極的消極的戰時經濟諸方策は近代戰が國家總力戰たる以上、これも戰ひの一部面、戰略の一つとして之から强力に實行せられる。

一方思想的には皇國存亡を決する戰ひである。總べてが大君のために盡さなければ申譯ないとの氣分が一億一人殘らず徹底されなければならない。各々その職責を自覺して國家に御奉公するところに心の誇りを覺える。か樣な空氣が出來上つて、然もそれが五年でも十年でも續くと云ふ事にならなければならない。われわれ日本國民はそう云ふ精神を生れながらにして持つてゐる。今こそそれが日常の生活に具體化されなければならない。恐らくそう云ふ日本精神がこれから日一日と旺盛になるであらう。かくして軍事、經濟、文化が戰爭目的に歸一する物心兩面の體制整備が完成する樣になるであらう。かくの如く大東亞戰爭は太平洋を狹んで双方國防國家體制の整備の大競爭戰とな

つて展開される。政戰一體、國家の資源、資材、勞力、資金が國家の計畫の下に、積極的に開發動員せられ、國民奉公の赤誠が組織化せられ、訓練せられた時、敵は神州日本を侵し得ずして、東亞制覇の野望を棄て去るであらう。

## 一五、むすび

滿洲事變後茲に十年、皇威は滿洲に、支那に發揚せられ、今正に南方熱帶に迄普ねかんとしてゐる。斯の如きは皇國三千年の歷史にその類なく、世界史に於ても稀なことである。神州日本國民として生れたる吾等の幸ひであり、誇である。今や天は吾等に大東亞建設否世界新秩序建設の大使命を與へた。吾等一億國民眞に一體となつて、死を決して戰つたならば必ずや勝つ。この信念を以てお互ひ相勵まし、相扶け、銃後を守り、君のため、國のため最後迄御奉公しよう。

（十二月九日記）



附錄一

# 對米覺書內容

一、帝國政府はアメリカ合衆國政府との間に友好的諒解を遂げ、兩國共同の努力により太平洋地域における平和を確保し以て世界平和の招來に貢獻せんとする眞摯なる希望に促され、本年四月以來合衆國政府との間に兩國國交の調整增進並に太平洋地域の安定に關し誠意を傾倒して交渉を繼續し來りたる處過去八箇月に亙る交渉を通じ合衆國政府の固持せる主張並にこの間合衆國及び英帝國の帝國に對し取れる措置につき率直にその所信を合衆國政府に開陳するの光榮を有す。

## 米英不誠意の限り盡す

二、東亞の安定を確保し世界の平和に寄與し以て萬邦をしておのゝその所を得しめんとするは帝國不動の國是なり。先に中華民國は帝國の眞意解せず不幸にして支那事變の發生を見るに至れる

も、帝國は平和克服の方途を講ずると共に戰禍の擴大を防止せんがため、終始最善の努力を致し來れり。客年九月帝國が獨伊兩國との間に三國條約を締結したるも、また右目的を達成せんがために外ならず。然るに合衆國及び英帝國は有らゆる手段を竭し重慶政權を援助して、日支全面和平の成立を妨害し東亞の安定に對する帝國の建設的努力を控制せるのみならず、あるひは蘭領インドを牽制し、あるひは佛領支那を脅威し、帝國とこれら諸地域とが相携へて共榮の理想を實現せんとする企圖を阻害せり。殊に帝國が佛國との間に締結したる議定書に基き佛領インド支那共同防衛の措置を講ずるや、合衆國政府及び英國政府はこれを以て自國領域に對する脅威なりと曲解し、オランダ國をも誘ひ、資產凍結令を實施して帝國との經濟斷交をあへてし、明らかに敵對的態度を示すと共に帝國に對する軍備を增强し、帝國包圍の態勢を整へ以て帝國の存立を危殆ならしむるが如き情勢を誘致するに至れり。右に拘らず帝國總理大臣は本年八月事態の急速收拾のため合衆國大統領と會見し、兩國間に存在する太平洋全般に亙る重要問題を討議檢討せんことを提議せり、しかるに合衆國政府は右申入に主義上贊同を與へながらこれが實行は兩國間重要問題に關し意見一致を見たる後とすべしと主張して讓らず。

## 我が讓歩的提案を無視



三、よつて帝國政府は九月二十五日從來の合衆國政府の主張をも十分考慮の上米國案を基礎としこれに帝國政府の主張を取入れたる一案を提示し論議を重ねたるが双方の見解は容易に一致せざりしを以て現內閣においては從來交涉の主要難點たりし諸問題につき帝國政府の主張を更に緩和したる修正案を提示し交涉の妥結に努めたるも合衆國政府は終始當初の原案を主張し協調的態度に出でず交涉は依然澁滯せり、こゝにおいて十一月二十日に至り帝國政府は兩國國交の破綻を回避するため最善の努力を盡くす趣旨を以て樞要かつ緊急の問題につき公正なる妥結を圖るため前記提案を簡單化し

(一) 兩國政府において佛印以外の南東アジア及び南太平洋地域に武力進出を行はざる旨を確約すること

(二) 兩國政府において蘭領インドにおいてその必要とする物資獲得が保障せらるゝやう相互に協力すること

(三) 兩國政府は相互に通商關係を資產凍結前の狀態に復歸すること、合衆國政府に所要石油の對日供給を約すること

(四) 合衆國政府は日支兩國の和平に關する努力に支障を與ふるが如き行動に出でざること

(五) 帝國政府は日支間和平成立するかまたは太平洋地域における公正なる和平確立する上は現

に佛領インド支那に派遣せられゐる日本軍隊を撤退すべく、また本了解成立せば現に南部佛領インド支那に駐屯中の日本軍はこれを北部佛領インド支那に移駐するの用意あることなどを内容とする新提案を提示し同時に支那問題について合衆國大統領が先に言明したる通り日支間和平の紹介者となるに異議なきも日支直接交渉開始の上は合衆國において日支和平を妨害せざる旨を約せんことを求めたるが、合衆國政府は右新提案を受諾するを得ずとなせるのみならず援蔣行爲を繼續する意思を表明し、次で更に前記の言明に拘らず大統領のいはゆる日支間和平の紹介を行ふ時機なほ熟せずとてこれを撤回し、つひに十一月二十六日に至り偏に合衆國政府が從來固執せる原則を強要するの態度を以て帝國政府の主張を無視せる提案をなすに至りたるが右は帝國政府の最も遺憾とする所なり。

## 理論に拘泥し現實無視

四、そも〳〵本件は交渉以來帝國政府は終始專ら公正かつ謙抑なる態度を以て鋭意妥結に努めしばしば難きを忍びてあたふ限りの讓歩をあへてしたるが、交渉上重要事項たりし支那問題に關しても協調的態度を示し合衆國政府の提唱せる國際通商上の無差別待遇原則遵守については本原則の世界各國に行はれんことを希望し、かつその實現に順應してこれを支那をも含む太平洋地域に適



用するやう努力すべき旨を表明し、なほ支那における第三國の公正なる經濟活動は何等これを排除するものにあらざるを闡明せるが、更に佛領インド支那よりの撤兵についても情勢緩和に資するがため前述の如く南部佛領インド支那より即時撤兵を進んで提議する等極力妥協の精神を發揮せるは合衆國政府のつとに了解する所なりと信ず。しかるに合衆國政府は常に理論に拘泥し現實を無視しその抱懷する非實際的原則を固執して何等讓歩せず徒らに交渉を遷延せしめたるは帝國政府の了解に苦しむ所なるが、特に左記諸點については合衆國政府の注意を喚起せざるを得ず

（一）合衆國政府は世界平和のためなりと稱して自己に好都合なる諸原則を主張しこれが採擇を帝國政府に迫れる處、世界の平和は現實に立脚しかつ相手國の立場に理解を持し、相互に受諾し得べき方途を發見することによりてのみ具現し得るものにして、現實を無視し一國の獨善的主張を相手國に強要するが如き態度は交渉の成立を促進するゆゑんのものにあらず。今般合衆國政府が日米協定の基礎として提議せる諸原則については右の中には帝國政府として趣旨において贊同にやぶさかならざるものあるも、合衆國政府が直にこれが採擇を要望するは世界の現狀に鑑み架空の理念に騙らるゝものといふ外なし。なほ日、米、英支、ソ、蘭、泰七國間に多邊的不可侵條約を締結するの案の如きも徒らに集團的平和機構の舊構想を追ふの結果、東亞の實情と遊離せるものといふの外なし

（二）合衆國政府今次の提案中に「兩國政府が第三國と締結しをる如何なる協定も本取極めの根本目的たる太平洋全域の平和確保に矛盾するが如く解釋せられざることにつき合意す」とあるが、即ち合衆國が歐洲戰爭參入の場合における帝國の三國條約上の義務履行を牽制せんとする意圖を以て提案せるものと認めらるゝを以て、右は帝國政府の受諾し得ざる所なり。由來合衆國政府はその自己の主張と理念とに眩惑せられ、自ら戰爭擴大を企圖しつつありといはざるを得ず。合衆國政府は一方太平洋地域の安定を策し自國の背後を安固となしつゝ他方英國を援け歐洲新秩序建設に邁進する獨伊兩國に對し自衛權の名の下に進んで攻擊を加へんとするものなるが、右は太平洋地域に平和的手段により安定の基礎を築かんとする幾多の原則的主張と全然矛盾背馳するものなり

## 九國條約の精神固執

（三）合衆國政府はその固持する主張において武力による國際關係處理を排擊しつゝ、一方英帝國等と共に經濟力による壓迫を加へつゝある處、かゝる壓迫は場合によりては武力壓迫以上の非人道的行爲にして、國際關係處理の手段として排擊せらるべきものなり

（四）合衆國政府の意圖は英帝國その他の諸國を誘引し、支那その他東亞の諸地域に對しその從



來保持せる支配的地位を維持强化せんとするものと見るの外なき處、東亞諸國が過去百有餘年に亙り、英米の帝國主義的搾取政策の下に現狀維持を强ひられ、兩國繁榮の犧牲たるに甘んぜざるを得ざりし歷史的事實に鑑み右は萬邦をしておのゝその所を得しめんとする帝國の根本國策と全然背馳するものにして、帝國政府の斷じて容認する能はざる所なり。合衆國政府の今次提案中佛領インド支那に關する規定は正に右態度の適例と稱すべく、佛領インド支那に關し佛國を除き、日、米、英、蘭、支、泰六國間に同地域の領土主權の尊重並に貿易及び通商の均等待遇を約束せんとするは、同地域を六國政府の共同保障の下に立たしめんとするものにして、佛國の立場を全然無視せる點は暫く措くも、東亞の事態を紛糾に導きたる最大原因の一たる九國條約類似の體制を新たに佛領インド支那に擴張せんとするものと見るべきものにして、帝國政府として容認し得ざる所なり

## 南京政府の否認態度

五、合衆國政府が支那問題に關し帝國に要望せる處はあるひは全面撤兵の要求といひ、あるひは通商無差別原則の無條件適用といひ、何れも支那の現實を無視し東亞の安定勢力たる帝國の地位を覆滅せんものとするものなる處合衆國政府が今次提案において重慶政權を除く如何なる政權をも

軍事的政治的かつ經濟的に支持せざることを要求し、南京政府を否認し去らんとする態度に出でたるは交渉の基礎を根底より覆すものといふべく、右は前記援蔣行爲停止の拒否と共に合衆國政府が日支間に平常狀態の復歸及び東亞平和の回復を阻害するの意思あることを立證するものなり

## わが希望遂に認めず

（五）これを要するに今次合衆國政府の提案中には通商條約締結、資產凍結令の相互解除、門弗爲替安定等の通商問題乃至支那における治外法權撤廢等本質的に不可ならざる條項なきにあらざるも他方四年有餘に亙る支那事變の犧牲を無視し、帝國の生存を脅威し權威を冒瀆するものあり、從つて全體的に觀て帝國政府としてはまた交渉の基礎として到底これを受諾するを得ざるを遺憾とす

（六）なほ帝國政府は交渉の急速成立を希望する見地より日米交渉妥結の際は英帝國その他の關係國との間にも同時調印方を提議し、合衆國政府も大體これに同意を表示せる次第ある處合衆國政府は英、濠、蘭、重慶等としば〳〵協議せる結果、特に支那問題に關しては重慶側の意見に迎合し前記諸提案をなせるものと認められ、右諸國は何れも合衆國と同じく帝國の立場を無視せんとするものと斷ぜざるを得ず



（七）思ふに合衆國政府の意圖は英帝國その他と苟合策動して東亞における帝國の新秩序建設による平和確立の努力を妨害せんとするのみならず、日支兩國を相鬪はしめ、以て英米の利益を擁護せんとするものなることは今次交渉を通じ明瞭となりたる所なり。かくて日米國交を調整し合衆國政府と相携へて太平洋の平和を維持確立せんとする帝國政府の希望はついに失はれたり。よつて帝國政府はこゝに合衆國政府の態度に鑑み、今後交渉を繼續するも妥結に達するを得ずと認むるの外なき旨を合衆國政府に通告するを遺憾とするものなり

## 日米交渉の經過

外務省公表

一、日米間の交渉は本年春頃よりワシントンにおいて開始せられ、四月中旬米國政府より非公式試案の提示ありたるが、右提案の內容は（一）兩國の抱懷する國際觀念および國家觀念（二）歐洲戰爭に對する態度（三）支那事變に對する態度（四）日米兩國間の通商（五）太平洋地域における經濟活動（六）太平洋地域の政治的安定（七）フイリツピン中立化等の項目を含みこれを太平洋全般の問題に關する一般的協定の基礎たらしめんとするものなり。本案には日本政府において受諾し得ざる點あり、同案中米國政府は日獨伊三國同盟條約に關しては、米國が自衞に名を藉り

て歐洲戰爭に參入する場合、帝國が太平洋方面において米國の安全を脅威せざることにつき保障を求め、又支那事變に關しては米國の容認する基礎條件をもつて日支和平を仲介せんとせり。依つて帝國政府は五月中旬、三國條約についてはわが軍事援助義務は同條約規定の場合に發動する旨を明かにし、又支那事變については米國は近衞三原則、日支基本條約および日滿華共同宣言を了承し、わが善隣友好政策に信賴して重慶に對し和平を勸告すべく、重慶において右勸告に聽從せざれば重慶援助中止を申入れありたき旨を要求する等の修正を加へたる對案を提出し交渉を重ねたるところ、六月下旬米國政府より前記四月案に比し米國の主張を更に具體的ならしめたる修正案を提示あり、爾後交渉は同案を繞り繼續せられたり

二、然るに七月第三次近衞内閣成立後間もなく帝國が佛國との間に締結したる議定書に基き佛領印度支那共同防衞の措置を講ずるや、米國は帝國に對し資産凍結を行ひ經濟的壓迫を加へ來れるが、帝國は依然平和解決の希望に促され八月近衞首相よりルーズヴェルト大統領に對しメッセージをもつて帝國政府の平和的意圖を開陳すると共に、危局救濟のためには一刻も速に兩國首腦者會合の必要なる所以を申送りたり。これに對し米國は主義上贊意を表したるも交渉中の懸案特に三國條約問題、在支日本軍隊駐留問題および國際通商無差別待遇問題に關し先づ合意成立するに非ざれば、これを實行に移し難しとの態度を固執し、且つ前記六月案を固持して讓歩せざりしに



より、わが方は九月六日局面打開策を提示し次で同廿五日に至りこれ等わが方の主張に前記米國側六月案を參酌せる新案を提出し交渉を重ねたるが、十二月二日米國はかねてその國際關係の基準として固持し來れる四原則、即ち（一）一切の國家の領土保全および主權尊重（二）他國の内政不干渉（三）通商上の無差別待遇（四）平和手段によるの外太平洋における現狀の不變更なる諸則の適用に關する帝國の意圖並に前記三問題に關し帝國政府の見解を更に明示せんことを要求し、交渉はこれがため難關に逢着するに至り、遂に停頓のまゝ十月中旬第三次近衞内閣は桂冠せり

かくの如く、兩國の見解對立を來したる所以のものは米國が國際關係處理につき獨善的見解に立脚せる架空の原則的理念を强硬に固執し、東亞の實情を顧みず、これをその儘支那その他に適用せんことを主張しをることに起因するものにして、米國にして右の態度を固持するにおいては本交渉の妥結は極めて困難なる狀況にありたり

## 來栖大使を派遣交渉續行

三、現内閣においては太平洋の平和を顧念するため交渉を繼續することに決し、公正なる基礎において妥結を圖らんとする見地より、當時交渉の主要問題たりし三事項につき（一）三國條約に關

聯する自衛權問題については米國において自衛權の觀念を濫に擴大せざる旨明確にすることを要求し（二）通商上の無差別待遇原則については右原則が全世界に適用せらるるにおいては右が支那を含む全太平洋地域に適用せらるることに異議なきこととし（三）撤兵問題については支那事變のため支那に派遣せられたる日本軍隊の一部は日支間平和成立後一定地域に所要期間駐屯すべく爾餘の軍隊は平和成立と同時に日支間協定に從ひ撤去を開始し治安確立と共に撤去すべく、又佛印に派遣せられる軍隊は支那事變解決するか又は公正なる東亞の平和確立するにおいては直にこれを撤去すべしとの案を得、右案により交渉を續行せり、この間政府は日米交渉成立の際は關係事項につき英國その他の諸國とも同時に了解の成立方米國側において斡旋すべきことを要望し尚本件交渉につき萬全の努力を拂はんがため來栖大使を米國に急派し、野村大使を援助せしむることとせり

然るに米國側は日米協定成立せば帝國は三國條約を保持するの要なかるべく、右は消滅若くは死文となることを希望する旨反覆力說し通商無差別原則は無條件に支那に適用することを主張し列國共同の下に支那の經濟協定開發を行ふこと等を包含する經濟政策に關する日米共同宣言案を提出せり、從つて帝國政府は右に對し通商無差別原則に就ては帝國は同原則が全世界に適用せらるゝことを希望し、右希望の實現に順應して支那に對しても同原則の適用を承認すとの趣旨を答



ふると共に右共同宣言案については支那共同開發提案は支那國際管理の端緒となる虞れあるを以て受諾し難きことを述べ米國側に撤回を求めたり

## 五項目に亘るわが新提案

四、十一月十七日以來野村大使は來栖大使と共に大統領および國務長官と會見を重ね、交渉急速妥結の要あることを力說せるところ、大統領は支那問題については日支間和平の「紹介者」たるの用意ありと述べ、又國務長官は帝國がドイツと提携しをる限り日米交渉は至難なるを以て、先づこの根本的困難を除去する必要ある旨を强調し、兩三回に亙り論議を重ねたるも難關は依然として三國條約、國際通商無差別待遇問題および支那問題にあること明かとなれるを以て、帝國政府は兩國國交の破綻を回避するため最善の努力を竭さんとする考慮に基き、樞要且つ緊急の問題につき公正なる妥結を圖るため十一月廿日左の新提案を提出せり

（一）日米兩國政府はいづれも佛印以外の南東亞細亞および南太平洋地域に武力的進出を行はざることを確約す

（二）日米兩國政府は蘭領印度においてその必要とする物資の獲得が保障せらるるやう相互に協力するものとす

（三）日米兩國政府は相互に通商關係を資産凍結前の狀態に復歸すべし、米國政府は所要の石油の對日供給を約す

（四）米國政府は日支兩國の和平に關する努力に支障を與ふるが如き行動に出でざるべし

（五）日本國政府は日支間和平成立するか、又は太平洋地域における公正なる平和確立する上は現に佛領印度支那に派遣せられをる日本軍隊を撤退すべき旨を約す

日本國政府は本了解成立せば現に南部佛領印度支那に駐屯中の日本軍はこれを北部佛領印度支那に移駐するの用意あることを闡明す

右に對し國務長官は帝國が三國條約との關係を明かにし平和政策採用を確信するに非ざれば右第四項を受諾し援蔣行爲を停止すること不可能なりといひ、又大統領のいはゆる日支間和平の「紹介者」たらんとの提案も日本の平和政策採用を前提とするものなる旨を述べ、第四項につき大なる難色を示したるをもつて、わが方は兩大使をして國務長官に對し大統領の紹介により日支直接交渉開始せらるゝ場合、和平の紹介者たる米國が依然援蔣行爲を繼續せんとするは平和成立を妨害するものにしてその態度に矛盾あることを指摘し、米國政府の反省を要請せしめたり

## 不當なる米國側の要求



五、然るにこの間米國政府は英、濠、蘭および重慶代表と協議する所あり、十一月廿二日國務長官は兩大使に對し南部佛印よりの撤兵のみにては南太平洋方面の急迫せる情勢を緩和するに足らずとする旨、並に大統領のいはゆる日支間の紹介は時機未だ熟せずと思考する旨を述べたり

米國政府はその後も前記諸代表と協議を重ねをりたるが廿六日國務長官は兩大使に對し廿日のわが提案については愼重研究を加へ關係國とも協議せるも遺憾ながら同意し難しとて今後の交渉の基礎案として大要左の如き案を提出せり、即ち

（一）日米相互間において實際に適用すべき根本的原則として政治關係においては前述の四原則を再述せるが、唯その中第四點を紛爭の防止および平和的解決並に平和的方法および手續による國際情勢改善のため國際協力および國際調停遵據の原則と改め、經濟關係においては主として前記政治的原則の第三通商上の機會均等および平等待遇の原則を敷衍し

（二）日米兩國政府の採るべき措置として（イ）日米兩國政府は英、蘭、支、蘇、泰と共に多邊的不可侵條約の締結に努む（ロ）日米兩國政府は日、米、英、支、蘭、泰國政府との間に佛印の領土主權を尊重し佛印の領土主權が脅威さるる場合必要なる措置に關し卽時協議すべき協定の締結に努む、右協定締結國は佛印における貿易および經濟關係において特惠待遇を排除し平等の原則確保に努む（ハ）日本政府は支那および佛印より一切の軍隊（陸、

海、空および警察）を撤收すべし（ニ）兩國政府は重慶政府を除く如何なる政權をも軍事的、政治的に支持せず（ホ）兩國政府は支那における治外法權（租界および團匪議定書に基く權利を含む）を拋棄し他國にも同樣の措置を慫慂すべし（ヘ）兩國政府は互惠的最惠國待遇および通商障壁低減の主義に基く通商條約締結を商議すべし（生糸は自由品目に置く）（ト）兩國政府は相互に資產凍結令を廢止す（チ）圓弗爲替安定につき協定し兩國それぞれ半額づゝ資金を供給す（リ）兩國政府は第三國と締結しをる如何なる協定も本協定の根本目的卽ち太平洋全地域の平和確保に矛盾するが如く解釋せられざることにつき同意す（ヌ）以上の諸原則を他國にも慫慂すること

を提案せり、右につき兩大使はその不當なるを指摘し强硬なる應酬をなせるが、國務長官は讓步の色を示さず、越えて廿七日大統領は兩大使に對し今なほ日米交渉の妥結を希望せざるに非ざるも暫定的方法により局面打開を圖るは兩國の根本主義方針が一致せざる限り結局無效と思考する旨を述べたり、よつて帝國政府は米國に對し十一月廿日のわが方提案は最も公正なる基礎において從來の彼我主張を十分考慮のうへ作成せられたるものなるにも拘らず米國がこれに同意するを得ずとなし、東亞の現實を無視せる新案を提出し殊に支那問題に關しその態度を豹變せるは米國の誠意を疑はしむるものなるにつき米國側において反省せんことを要求せるが、國務長官は從



來の態度を固執するのみにて交渉の本質的問題につき更に商議を進めんとする色なく、越えて十二月二日に至りウェルズ次官は大統領の命なりとて情報によれば最近佛印方面において日本軍隊の移動增强行はれをれりとて右に關する帝國の眞意を照會越したり、よつて帝國政府は右は最近佛印と支那との國境付近において支那軍が頻りに蠢動しをるに鑑み、これに備へんがため北部佛印において一部兵力の增强を行ひたるものなるところ、これと關聯して自然南部においても部隊の移動が行はれたるものなる旨を回答したるが、この間米國政府は對日包圍陣を急速に增强すると共に輿論を指導し、交渉決裂の場合の地固めをなすに至れり

六、從て前記米國提案に對し帝國政府は十二月七日付を以て別添「對米覺書」を以てその態度を明にせり

◇　　◇

## 附錄第二

# 米英の敵性日記

以下事變勃發以來英米が如何に執拗惡辣な對日敵性ぶりを示したが、その主なる實例を擧げてみ

やう。

## 英國

英國英大使負傷事件（一二・八・二六）ヒューゲッセン大使は日支兩軍の交戰區域を通行し飛行機の攻擊に遭ふや、これをわが軍の所業なりとして誹謗した。

英艦レディーバード號事件（一二・一二・一二）南京攻略の最中レディーバード號は殊更戰鬪區域に止まりわが軍の誤射に遭ふや自己の非を忘れて皇軍を誹謗した。

法幣平衡資金の設定（一四・三・八）法幣維持を名目に英支共同出資による一千萬ポンドの平衡資金を設定し蔣介石を援助した。

スペア中佐の利敵事件（一四・六・一四）駐支英國武官スペア中佐は北支の皇軍占領地區内を内偵して之を重慶側に通報した。

天津英租界當局の敵性（一四・四・九）租界内に抗日分子をかくまひ彼等を暗躍せしめ遂に例の租界問題を惹起せしめた。

淺間丸臨檢事件（一五・一・二四）米國より横濱に向け航行中の淺間丸を英艦が不法臨檢し、便乘中のドイツ人を拉致するの不法を敢へてした。



ビルマ公路の再開（一五・一〇・一八）帝國の申入れで一旦閉鎖した同公路を再開して援蔣物資の輸送を積極的に行ひ崩壞せんとする重慶を支へて今日に及んでゐる。

資産凍結（一六・七・二六）米國の資産凍結に直ちに追隨してこれを行つた。

援蔣物資の免稅（一六・九・三）ビルマ英當局は武器貸與法による援蔣物資を免稅とし物資の活潑な流入に資した。

英米マニラ會談（一六・一〇・三）英極東軍司令官ポッパム大將、米軍代表マグルーダ准將等はマニラで會談し英米合作の對日戰略を協議し、ABCD包圍陣强化を策した。これより先き四月九日にもマニラ會談を遂げクレフエンス蘭外相、ポッパム大將、セーヤー比島高等辯務官、ハート米アジヤ艦隊司令官等が會合し對日共同戰線に關し協議してゐる。

## 米國

在支權益の保證要求（一二・七・二八）支那事變勃發直後わが軍事行動の擴大に伴ひハル國務長官は在支米權益の保證確認を要求し、わが作戰を牽制せんとした。米國の今次事變不當介入の最初である。

わが軍行動阻止企圖（一二・八月中旬）米ソ親善を見せかけわが軍事行動を牽制すべく米ソ通商

協定を成立せしめた。この結果ソ聯は主力艦二、三隻の對米註文を行ひソ聯機はしばし北極通過對米飛行を行つた。

銀問題協定急遽成立　（一二・八月中旬）　同時に積極的な軍需品の供給開始。

國際的な反日工作展開　（一二・八月中旬）　暗々裡に英佛ソ等と語らひ國際輿論を日本に不利なる如く畫策。

グルー大使の申入れ　（一二・八・一六）　駐日グルー大使は廣田外相を訪問、上海附近を非戰鬪區域となすべしと恫喝的な申入れを行つた。

海兵隊の上海派遣　（一二・八・一七）　海兵隊一個中隊をマニラより上海に急派しわが作戰を牽制せんと目論む。なほ同日ハル長官は米本國から海兵一個聯隊派遣に中立法問題につき愼重考慮中なりと聲明した。われを牽制せんとの意圖である。

ハル長官の重大聲明　（一二・八・二三）　帝國に對して九國條約、不戰條約等を尊重すべしと强調した。

沿岸遮斷にハル聲明　（一二・八・二八）　日本の封鎖範圍に關しては何等正式の確認に接しないと稱し帝國海軍の封鎖宣言に疑惑を抱くと反日的意思表示を行つた。

フーヴアー號事件　（一二・八・三〇）　米船プレシデント・フーヴアー號を支那空軍が誤爆するやこの責任を追究するとなく解決した。われとかれとでは全く態度を異にす。

我が軍事行動に敵性聲明　（一二・九月）「支那における日本の行動は國際原則に反し且つ九國條約並に不戰條約に違反す」と日本攻擊を行ふ。

防共協定に反對輿論　（一二・一一月中旬）　同協定の成立で米國輿論はいよいよ反日的傾向を强くす

パネー號事件

日本通商航海條約廢棄　（一四・七・二六）　何時なりとも自由に對日經濟壓迫をなし得るとの態度を誇示し經濟封鎖の意圖を明かにした。

援蔣七千萬弗借款　（一五・四・一一）　南京政府成立、日佛協定成立、日獨伊三國同盟締結、かうした東亞再編成の新事態出現で米の輿論はいよいよ惡化し反日的となる。援蔣七千萬ドルの新借款成立。

對日禁輸の開始　（一五・八月中旬）　八月五日の高オクタン價ガソリンの禁輸を最初に各種物資の輸出許可制を採り觀念的な日本威壓から實質的な經濟封鎖態勢を取つて來た。

屑鐵輸出許可制採用　（一五・九・二六）

日支新條約不承認聲明　（一五・一二・二）　汪政權不承認の聲明を行ふ。

輸出許可制の範圍擴大（一五・一二・一〇）鐵鋼、銑鐵、鐵合金等輸出許可制となる。

南佛印進駐と資産凍結（一六・七・二五）皇軍の佛印進駐に伴ひ在米帝國資産凍結を斷行す。

大統領の重慶援蔣報告（一六・九・一五）大統領は議會に於て、武器貸與法による重慶援助促進のためマグルーダー准將を重慶に派遣したと報告、派遣の目的は軍需品、醫療用品、ビルマ公路並に同鐵道資材の供給問題等を調査し重慶の抗戰力に活を入れんとしたのである。

グレーディー重慶訪問（一六・一〇・九）グレーディーは重慶滯在中米國の國防計畫に必要な奥地鑛山資源の殆ど全部の長期發掘權を獲得した、彼はその後マニラにおいて重慶は間もなく米國製軍用機で編成された有力な空軍を獲得するであらうと語つてゐる。

政府顧問の派遣　ル大統領はオーエン・ラティモーアを蔣の政治顧問として送り、さらに自身のブレーンの一人ラフカン・カリを重慶に派して援蔣を強化し對日抗戰力の積極的培養に憂身をやつしてゐる。

對日抗議六百件を超ゆ　事變以來米國が我が方に行つた權益擁護の抗議は實に六百件を突破する有様で如何に彼が帝國の支那事變處理の妨害に熱中してゐるかはこの數字が如實に物語つてゐる。

（日々新聞より）



413
401

昭和十六年十二月十八日印刷
昭和十六年十二月廿一日發行　（定價 二十錢）

大東亞戰爭とその前途

編輯兼發行人　東京市麴町區丸之内三ノ一四　入澤文明

印刷人　東京市神田區錦町三ノ二　菅生定祥

發行所　東京市麴町區丸之内三ノ一四　大政翼贊會宣傳部

販賣所　大政翼贊會宣傳部　電話丸ノ内六五二〇(九)　振替東京九七五〇〇

全國各地官報販賣所
全國各地主要書店

（不許無斷轉載）

寒冒に対する

防衛力強化に

…毎朝缺かさず、一—二粒のハリバを連用して、體内に脂溶性ビタミンを充實すれば、皮膚や呼吸器粘膜に強い防衛力が培はれ、嚴寒季にも、かぜ引き知らずに、無缺勤で、職務に精勵できます。

五百粒…十圓五十錢
百　粒…二圓五十錢

東京市日本橋區本町　田邊商店

ハリバ


終